

# 平成27年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果（概要版）

H27.8.25 福島県教育委員会

## 1 調査に関する概要

実施日	平成27年4月21日（火）	
実施校数	小学校 453 校 (16,436 人)	中学校 227 校 (17,221 人)
調査学年	小学校 6 年生	中学校 3 年生
調査教科	小学校 国語、算数、理科	中学校 国語、数学、理科

※ 特別支援学校（小学部）及び特別支援学校（中学部）を含む。

## 2 教科に関する調査の結果

《教科に関する調査の結果の総括（公立）》

- 今回の調査結果については、小学校国語及び小・中学校理科はおおむね全国平均であるが、中学校国語は全国平均をやや下回っており、小学校算数及び中学校数学は全国平均を下回っている。
- 今後も、知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決する力の育成に取り組む必要がある。
- 日頃から「わかる・できる授業」を目指すとともに、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための学習指導の改善により一層取り組む必要がある。
- 児童生徒の学力や学習状況を多面的に分析し、児童生徒一人一人へのきめ細かな支援や学習状況の改善等に取り組んでいく必要がある。

### （1）小学校 国語

- 国語Aの平均正答率は71.0%（全国70.0%）、国語Bの平均正答率は65.3%（全国65.4%）であり、小学校国語については、おおむね全国平均である。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

#### ① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,434	453	71.0
全 国	1,061,264	20,004	70.0

#### ② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,430	453	65.3
全 国	1,061,093	20,003	65.4

## (2) 小学校 算数

- 算数 A の平均正答率は 74.3 % (全国は 75.2 %)、算数 B の平均正答率は 42.4 % (全国は 45.0 %) であり、小学校算数については、全国平均を下回っている。
- 今後は、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを実生活の様々な場面に活用する力や筋道立てて考え表現する力の育成に向け、一層効果的な指導方法を工夫していく必要がある。

### ① 算数 A (主として「知識」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,434	453	74.3
全国	1,061,301	20,004	75.2

### ② 算数 B (主として「活用」に関する問題)

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,432	453	42.4
全国	1,061,063	20,001	45.0

## (3) 小学校 理科

- 理科の平均正答率は60.7% (全国60.8%) であり、小学校理科については、おおむね全国平均である。
- 今後は、観察・実験後に、自分の予想や仮説と結果とを照らし合わせて考察をしたり、他者の考えを認識し、自分の考えを改善したりするような活動を一層重視する必要がある。

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	16,436	453	60.7
全国	1,060,792	19,861	60.8

## (4) 中学校 国語

- 国語 A の平均正答率は75.2% (全国75.8%)、国語 B の平均正答率は64.5% (全国65.8%) であり、国語 A については、おおむね全国平均であるが、国語 B においては、全国平均をやや下回っている。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

① 国語A（主として「知識」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,221	227	75.2
全 国	1,016,451	9,689	75.8

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,215	227	64.5
全 国	1,016,575	9,689	65.8

(5) 中学校 数学

- 数学Aの平均正答率は61.2%（全国64.4%）、数学Bの平均正答率は38.1%（全国41.6%）であり、中学校数学については、全国平均を下回っている。
- 今後は、数学的活動をより一層重視し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導の充実とそれらを活用する力の育成に向けた指導の工夫・改善を図る必要がある。

① 数学A（主として「知識」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,219	227	61.2
全 国	1,016,737	9,687	64.4

② 数学B（主として「活用」に関する問題）

	生徒数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,215	227	38.1
全 国	1,016,548	9,687	41.6

(6) 中学校 理科

- 理科の平均正答率は52.5%（全国は53.0%）であり、中学校理科については、おおむね全国平均である。
- 主として「知識」（基礎的・基本的な知識・技能）に関する問題は、全国の平均正答率を上回っているものが多い。しかし、主として「活用」（知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等）をみる問題については全国の平均正答率を下回っているものが多い。今後は、科学的な探究の過程を踏まえ、知識・技能を活用して課題を解決する授業展開に心がけていく必要がある。

	児童数	学校数	平均正答率 (%)
福島県	17,217	227	52.5
全国	1,016,572	9,689	53.0

### 3 児童生徒質問紙調査の結果

〈質問番号〉：(23)

「家で、学校の授業の復習をしていますか」について

- 家で、学校の授業の復習をしている小学生の割合は 70.5 %、中学生の割合は 63.7 %であり、どちらも全国の割合（小：54.5 %、中：52.0 %）より高い。  
また、26年度調査と比較すると、復習をしている割合が小学生で0.9ポイント、中学生で2.1ポイント高くなっている。
- このことから、家庭においてその日の授業を振り返り、学習内容の定着を目指し、努力する子どもたちの姿が見える。授業と家庭学習の関連が図られてきているが、今後は、家庭学習が質的により充実したものとなるよう各学校が積極的に具体的な支援を一人一人の子どもに対して継続的に行うことが大切である。

〈質問番号〉：(13)

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について

- 学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間については、月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は 72.4 %、中学生の割合は 73.0 %であり、どちらも全国の割合（小：62.7 %、中：69.0 %）より高い。  
また、月～金曜日の学習時間が30分より少ない、または全くしない小学生の割合は 6.3 %、中学生の割合は 9.2 %であり、どちらも全国の割合（小：12.1 %、中：13.9 %）より低い。  
26年度調査と比較すると、1時間以上学習している割合は、小学生で 0.7 ポイント、中学生で 1.7 ポイント高くなっている。
- 子どもたちの家庭における学習習慣は定着してきているが、今後もさらに学習時間の確保や子ども一人一人に合った学習内容に取り組みさせるなど、質的向上に向け、なお一層、家庭との連携を図っていくことが大切である。

〈質問番号〉：(11)

「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について

- 月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している小学生の割合は 30.5 %、中学生の割合は 35.9 %であり、小学生の割合は全国の割合（30.2 %）より高く、中学生の割合は全国の割合（36.3 %）より低い。  
26年度調査と比較すると、月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している割合は、小学生で 0.9 ポイント低く、中学生で 1.5 ポイント高くなっている。
- この現状から、小・中学生ともにテレビゲームをする時間をさらに減らし、その時間を家庭学習や読書の時間に充てさせるなど、時間の有効活用について家庭と連携した取組をしていくことが大切である。



平成27年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果

平成27年8月25日  
福島県教育庁義務教育課

# 目 次

I	調査の概要	1
II	教科に関する調査の結果	
1	教科に関する調査の結果についての総括（公立）	1
2	教科に関する調査の結果（公立）	
(1)	小学校 国語（公立）	2
(2)	小学校 算数（公立）	7
(3)	小学校 理科（公立）	1 2
(4)	中学校 国語（公立）	1 5
(5)	中学校 数学（公立）	2 0
(6)	中学校 理科（公立）	2 5
III	児童生徒質問紙調査の結果	2 8
IV	今後の指導に当たって	3 3
V	各学校における組織的・継続的な取組	3 7

# 平成27年度全国学力・学習状況調査に係る福島県の結果

平成27年8月25日  
福島県教育庁義務教育課

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 実施日

平成27年4月21日（火）実施

### 3 4月21日に調査を実施した学校・児童生徒数（公立）

	4月21日調査実施 学校数(児童生徒数)	備 考
小学校	453校(16,436人)	臨時休業中4校を除く。
中学校	227校(17,221人)	臨時休業中2校を除く。
合 計	680校(33,657人)	

※ 特別支援学校（小学部）及び特別支援学校（中学部）を含む。

## II 教科に関する調査の結果

### 1 教科に関する調査の結果についての総括（公立）

- 今回の調査結果については、小学校国語及び小・中学校理科はおおむね全国平均であるが、中学校国語は全国平均をやや下回っており、小学校算数及び中学校数学は全国平均を下回っている。
- 今後も、知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決する力の育成に取り組む必要がある。
- 日頃から「わかる・できる授業」を目指すとともに、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるための学習指導の改善により一層取り組む必要がある。
- 児童生徒の学力や学習状況を多面的に分析し、児童生徒一人一人へのきめ細かな支援や学習状況の改善等に取り組んでいく必要がある。

## 2 教科に関する調査の結果（公立）

### （1）小学校 国語（公立）

- 国語Aの平均正答率は71.0%（全国70.0%）、国語Bの平均正答率は65.3%（全国65.4%）であり、小学校国語については、おおむね全国平均である。
- 今後は、目標を達成させるための効果的な言語活動を授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させていく必要がある。

#### ① 国語A（主として「知識」に関する問題）

国語A	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,434	453	9.9/14	71.0%	10.0	2.6
全国	1,061,264	20,004	9.8/14	70.0%	10.0	2.8

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題（例）

<b>2</b>	文の構成について理解すること。
<p>[正答]</p> <p>一 1 イ 2 ウ</p> <p>二 1 イウ 2 ウア 3 ア</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: right;"><b>2</b></p> <p>次の一と二の問いに答えましょう。</p> <p>一 1と2の文の主語として適切なものを、アからエまでの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましょう。</p> <p>1 降<sup>ア</sup>っていた<sup>イ</sup>雨<sup>ウ</sup>が、急<sup>エ</sup>にやんだ。</p> <p>2 ぼく<sup>ア</sup>の妹<sup>イ</sup>の誕生<sup>ウ</sup>日は、五月二日<sup>エ</sup>だ。</p> </div> <p>二 1から3までの文は、下の【文の型】の「ア・イ・ウ」のどの型に当たりますか。適切なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">【文の型】</p> <p>ア 「何が（が）」 「何だ」</p> <p>イ 「何が（が）」 「どうした」</p> <p>ウ 「何が（が）」 「どんなだ」</p> </div> <p>3 日本で一番高い山は、富士山<sup>ア</sup>だ。</p> <p>2 頂上<sup>イ</sup>から見える景色は、すばらしい。</p> <p>1 私は、国語<sup>ウ</sup>の学習で感想文を書いた。</p>
<p>文中における主語を捉えたり、文を構成する主語と述語との照応関係を捉えたりすることができるかをみる問題である。平均正答率は、設問一が60.7%（全国53.1%）、設問二が72.5%（全国71.7%）であり、ともに全国の平均正答率を上回っている。「何が（は）～どうした」「何が（は）～どんなだ」「何が（は）～何だ」という構成において、「何が（が）」に当たる言葉が「主語」であり、動き（「どうした」）や様子（「どんなだ」）、性質（「何だ」）を表す言葉が「述語」であることを理解していることが求められる。指導に当たっては、例文の中から主語と述語とを区別して取り出す活動があげられるが、カードやワークシートを活用して視覚的に捉えやすくしたり、理由を添えて説明し合う場を設定したりするなど、より理解が深まるように工夫しながら指導していくことが大切である。</p>	

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

3	話の内容に対する聞き方を工夫すること。
---	---------------------

5 目標の達成につながる提案であるかを評価しながら聞いている。

4 提案に対して反対の立場に立ち、疑問をもちながら聞いている。

3 どのようなことをもとにした提案なのかを考えながら聞いている。

2 自分が予想したとおりかどうかを確かめながら聞いている。

1 提案の内容と自分たちの様子とを関係付けながら聞いている。

【美化委員会からの提案の一部】

最近、校内の上ごれが気になります。みなさんは、そうじに一生けん命取り組んでいますか。中には、おしゃべりばかりしている人や取りかかりがおそい人もいますよ。そこで美化委員会から、来月の全校美化週間において取り組むことを、次のように提案します。それは、「さ・し・す・せ・そ」を合い言葉に取り組むことです。

① さ…さっと取りかかり  
② し…しずかに  
③ す…すみずみまで  
④ せ…せいっぱい  
⑤ そ…そうじをしよう

これらを合い言葉に、みんなで力を合わせ、きれいな学校にしていきたいでしょう。  
（提案が続く）

【青木さんの心の中の声】

A


そうじに対する取り組みの問題点を、をもとに、提案しているんだな。

B

六年生は、「さ」と取りかかり」と「すみずみまで」については、あまりできていないような気がするわ。

C

低学年にも分かりやすいな。これなら、そうじのときに合い言葉として声をかけ合うことになるだろうから、きつと効果が上がるわ。



【青木さんの心の中の声】

次は、代表委員会に出された【美化委員会からの提案の一部】と、それを聞いている六年生代表の【青木さんの心の中の声】です。A・B・Cは、どのような聞き方をしていますか。それらについて説明しているものを、あとの1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

【美化委員会からの提案の一部】

【青木さんの心の中の声】

3

【正答】

A - 3

B - 1

C - 5

話の内容に対する聞き方を工夫することができるかどうかをみる問題である。代表委員会に出された美化委員会の提案を聞くという設定場面において、聞き手の【心の中の声】をもとに、聞き方のポイントを簡潔に整理する力が求められる。平均正答率は44.9%（全国53.0%）であり、全国の平均正答率を大きく下回っている。この問題は平成25年度のB1二の問題とも関連する問題であるが、その平均正答率は42.9%（全国48.5%）であった。話し手の目的や意図を捉えながら聞くことに依然として課題が見られる。

「話すこと・聞くこと」の指導は、学習指導要領〔第3学年及び第4学年〕では、「エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。」、〔第5学年及び第6学年〕では「エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。」が設定されており、主体的な聞き手が育つように、学年の発達段階に応じて計画的に指導することが大切である。また、話を聞く際には、自分や自分たちに伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を十分に聞き取ることができるように指導することが重要である。また、聞き取った内容について、自分の考えと比べて共通点や相違点に分類したり、関連して考えたことなどを整理したりすることにより、相手の目的や意図を捉えながら、自分の考えをまとめることができるように指導することが求められる。具体的には、必要に応じて、メモを取りながら整理して聞いたり、メモの内容を整理し相互の関係を考えたりするような指導を工夫したい。メモの指導については、国語科の学習だけでなく、各教科や日常生活においても具体的に指導していくことが大切である。

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

国語B	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,430	453	5.9/9	65.3%	6.0	2.3
全国	1,061,093	20,003	5.9/9	65.4%	6.0	2.4

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題（例）

3 二 登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読すること。

《絵4》

5  
「何を言うか。一休、絵のどろが、速い出せるかと思うよ。」  
「それはおかしい。先ほどのどろは、このどろが、毎晩飛び出て悪化回るとおっしゃいました。ひどく飛び出すくらいですから、家来の方々に速い出せないわけがないでしょう。」  
「ううむ。ううむ。何を言えなくってしまいました。」  
「一休さんは、続けて、出て来ないのでしょうか。それなら、今夜もう一度行き直しましょうか。」  
「それを見て、どのさまは、もうよい、わしの負けじや。」  
「さういふこと。」

《絵3》

4  
「一休さん、お話を聞くと、さういふこと。」  
「一休さん、お話を聞くと、さういふこと。」

《絵2》

3  
「一休さん、お話を聞くと、さういふこと。」  
「一休さん、お話を聞くと、さういふこと。」

《絵1》

1  
「一休さん、お話を聞くと、さういふこと。」  
「一休さん、お話を聞くと、さういふこと。」

【正答例】  
とのさまは、無理なことをとんちで解決した一休さんをほめてあげたかったと思います。だから、少し高い声で調子よく読みます。(59字)

「一休さんとんち話」を読み、「山田さんたちの話し合い」を受けた上で、音読するときの工夫とその理由を条件に沿って具体的に書く問題である。平均正答率は、72.9%（全国 66.6%）であり、全国の平均正答率を上回っている。一文一文や段落ごとの読みだけでなく、物語全体の内容や構成、展開などを捉えて音読の仕方を工夫し、それを理由とともに記述するという難易度の高い問題であるが、無解答率も 8.8%（全国 15.1%）と低い。捉えたことを音読に生かして聞き手に伝えたり、自分の考えを条件に沿って記述したりする力が付いてきていることが分かる。授業で、音読を効果的に位置付けるとともに、根拠を明らかにしながら自分の考えを話したり書いたりする活動を取り入れている成果と考えられる。物語を音読する際は、場面の移り変わりや登場人物の行動や気持ちの変化等を捉えることが重要である。音読の観点を示して友達一人一人の解釈の違いに気付かせ、話し合いによって互いの考えを比較したり関係付けたりさせていくことは、解釈を深めていくと同時に論理的な思考力を育成する上で有効な学習である。今後も積極的に取り入れていく必要がある。





## 【小学校国語における課題等】

- ◇ (A) 正しく漢字を読むこと。〔1一〕
- ◇ (A) 具体的な事例を挙げて説明する文章を書くこと。〔4〕
- ◇ (B) 目的に応じ、中心となる語や文を捉えること。〔2一イ〕
- ◇ (B) 目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えること。〔2二〕
- ◆ (A) 話の内容に対する聞き方を工夫すること。〔3〕
- ◆ (A) 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えること。〔5二〕
- ◆ (B) 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと。〔1三〕
- ◆ (B) 文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くこと。〔2三〕

※ ◇…相当数の児童ができている問題 ◆…課題のある問題

( ) 内の記号は、A…国語A、B…国語B [ ] 内の記号は、問題番号

- 漢字を正しく読んだり書いたりすることは、相当数の児童ができている。また、文を構成する主語と述語との照応関係も理解しており、言語や文の構成に関する基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていることがうかがえる。今後、定着に向けた継続的な指導や漢字、慣用句などを児童自らが文章の中で活用することができるよう指導を充実させていくとともに、語彙を広げるために、国語科に限らず、各教科等の調べ学習の中でも積極的に辞書を利用する機会を設けていく必要がある。
- 目的に応じ、中心となる語や文を捉えたり、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えたりする力の育成が図られ、説明された内容を的確に理解する力が付いてきている。今後は、日常的に多様な種類の文章を読み、要旨を捉える経験を繰り返していくことが重要である。その際、指示語や接続語、文末表現、繰り返し使われている語等に注目できるよう指導することが大切である。また、要旨をまとめる際には、重要な点を全て列挙するのではなく、求められる分量や表現の仕方などに合わせて書くことができるような指導を重ねていくことが必要である。
- 話の内容に対する聞き方を工夫することに課題が見られる。相手の話を聞く際、話し手の意図を明確にしたり、自分の考えと比べたりするなど、聞き方を工夫することは重要である。そのためには、聞き方のポイントを意識させながら聞く学習の機会を意図的・計画的に設定するとともに、聞いて考えたことをまとめることができるように指導していくことが大切である。また、話すことと連動させながらの指導を低学年の段階から系統的・累積的に行いたい。
- 目的や意図に応じて内容を整理しながら書いたり、文章と図などの資料とを関係付けて自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。目的や意図に応じることには、読み手を意識することが含まれる。伝えたいことの中心を明確にした上で、自分で調べた内容や取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように整理して書く指導が必要である。また、説明的な文章では、図表やグラフ、絵、写真等を用いることで文章がわかりやすくなるという効果がある。文章と図表やグラフなどを関係付けて自分の考えをまとめる活動は、国語科の時間はもちろんのこと、各教科等においても適宜取り入れることが大切である。



(2) 小学校 算数 (公立)

- 算数 A の平均正答率は 74.3 % (全国は 75.2 %)、算数 B の平均正答率は 42.4 % (全国は 45.0 %) であり、小学校算数については、全国平均を下回っている。
- 今後は、基礎的・基本的な知識・技能のより確実な定着とそれらを実生活の様々な場面に活用する力や筋道立てて考え表現する力の育成に向け、一層効果的な指導方法を工夫していく必要がある。

① 算数 A (主として「知識」に関する問題)

算数 A	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,434	453	11.9/16	74.3%	13.0	3.4
全国	1,061,301	20,004	12.0/16	75.2%	13.0	3.4

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題 (例)

- 1 (1) ○ 小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えること。
- 6 (1) ○ 示された見取り図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ること。
- 8 ○ 式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解すること。

**1** 次の問題に答えましょう。

(1)  $8.9 - 0.78$  のおよその答えとしてふさわしいものを、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1 0.1  
2 1  
3 0.8  
4 8

[ 正 答 ] 4

**8** 図 1 のように並んだ ○ の個数の求め方を考えます。

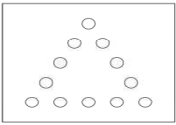


図 1

図 2、図 3 のように ○ を囲み、○ の個数の求め方を式に表しました。

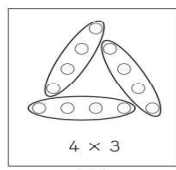
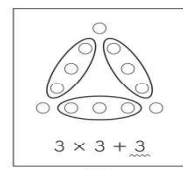



図 2                      図 3

図 3 の式の  $\frac{3}{2}$  はどの ○ を表していますか。  
解答用紙の図の、あてはまるすべての ○ の中を黒くぬりましょう。

[ 正 答 ] 省略

**1** (1) は、小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 72.7% (全国 71.0%) であり、全国の平均正答率を上回っている。

**6** (1) は、示された見取り図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 76.1% (全国 75.4%) であり、全国の平均正答率を上回っている。

**8** は、式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 90.1% (全国 88.1%) であり、全国の平均正答率を上回っている。

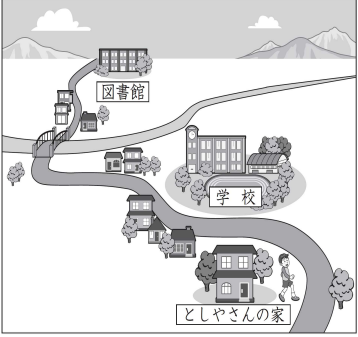
今後とも指導に当たっては、目的に応じて計算の結果の見積りをする場を適宜位置付け、計算の仕方や結果について振り返って判断できるようにすることが大切である。また、見取り図や展開図に表す活動とともに、見取り図や展開図を読む活動を位置付ける必要がある。さらに、数量の関係を式に表したり、式を読み取ったりして、式のよさ分かるようにするとともに、式を適切に用いることができるように指導していくことが重要である。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

3	○ 日常生活の中で必要となる時刻を求めること。
4 (2)	○ $180^\circ$ や $360^\circ$ を基に分度器を用いて、 $180^\circ$ よりも大きい角の大きさを求めること。
5 (2)	○ 円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めること。

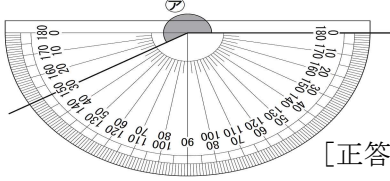
**3**

としやさんは、家から学校の前を通って図書館へ行きます。  
 家から学校までは5分、学校から図書館までは20分かかります。  
 午後3時10分までに図書館に着くためには、おそくとも、午後何時何分までに家を出ればよいですか。その時刻を書きましょう。



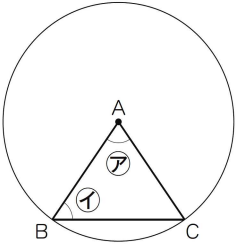
[正答] 午後2時45分

**4** (2) ①の角の大きさは何度ですか。答えを書きましょう。



[正答]  $210^\circ$

**5** (2) 下の図の①の角の大きさが $70^\circ$ のとき、②は何度ですか。答えを書きましょう。



[正答]  $55^\circ$

**3**は、日常生活の中で必要となる時刻を求めることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は70.6%（全国74.8%）であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、まず、条件を整理して時刻や時間を求めることができるようにすることが大切である。その際、条件が増えても順序よく時刻や時間を求めることができるように、一つ一つの条件を確認しながら筋道立てて考える場を設けるようにしたい。また、時間の単位「時」が1増えたり減ったりする場面を基に、1時間が60分間という関係を丁寧に指導することも大切である。ある事柄の開始時刻と所要時間、終了時刻の関係を正しく捉えることができるよう線分図や模型の時計盤などを用いて、時間が経過していく様子を視覚的に捉えることができるようにしていくことが考えられる。

**4**(2)は、 $180^\circ$  や  $360^\circ$  を基に分度器を用いて、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求めることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は54.7%（全国58.0%）であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、角の大きさの検討を付ける活動や分度器を用いて測定する活動、見当付けの結果と測定の結果について振り返って確かめる活動が大切である。その際、形式的な測定の処理だけでなく、日常の事象と関連付けたり、児童が主体的にかかわる場面を設けたりすることが必要である。角の大きさの測定については、合同な図形や縮図や拡大図などの関連する内容においても意図的に取り扱うことで、分度器を用いた角の大きさの測定や作図の技能の定着を図ることが重要である。

**5**(2)は、円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は57.8%（全国64.5%）であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、角の大きさや辺の長さの求め方が適切である根拠を明確にすることが大切である。例えば、一つの円の半径はどれも等しいことを基に示された三角形は二等辺三角形であることと考えさせたり、二等辺三角形では、二つの角が等しいことを基に①の角が等しい角の一つであると考えたりするなど、なぜその求め方で角の大きさを求めることができたのか、根拠を明確にしていくことが考えられる。



② 算数B（主として「活用」に関する問題）

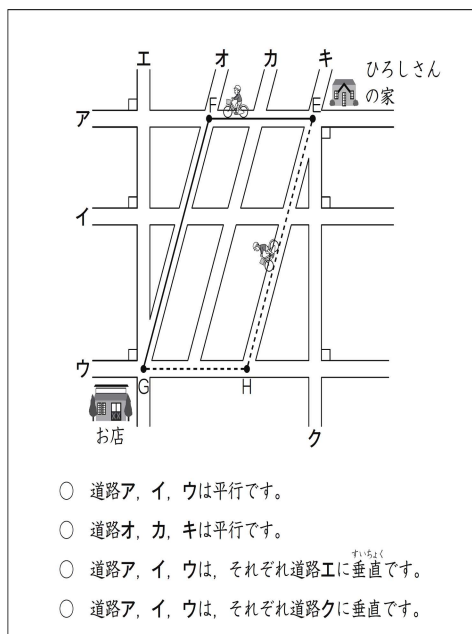
算数B	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,432	453	5.5/13	42.4%	5.0	2.9
全国	1,061,063	20,001	5.9/13	45.0%	6.0	3.0

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題

1 (3) ○ 示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を言葉と記号を用いて記述できること。



(3) ひろしさんは、下の地図を使って、家からお店まで行くときの近道を考えています。

そこで、交差点Fを曲がる  の道のりと交差点Hを曲がる  の道のりを、下のように考えて比べました。



ひろしさんの考え

EFとHGの道のりは等しく、FGとEHの道のりも等しいことがわかります。だから、EFとFGの道のりの和と、EHとHGの道のりの和は等しくなります。

このことから、交差点Fを曲がる  の道のりと、交差点Hを曲がる  の道のりは等しくなります。

ひろしさんの考えにある、EFとHGの道のりは等しく、FGとEHの道のりも等しいことは、左の地図から見つかる図形の特ちょうを使うと説明できます。

左の地図からどのような図形を見つけたらよいですか。また、図形のような特ちょうを使えばよいですか。

図形と特ちょうを、言葉と地図にある記号を使って書きましょう。

〔正答〕(例)

地図には平行四辺形EFGHがあります。平行四辺形には、向かい合った2組の辺の長さがそれぞれ等しいという特ちょうがあります。

示された二組の道のりが等しくなる理由として、地図から平行四辺形を見だし、その図形の性質を言葉や記号を用いて記述する問題である。平均正答率は28.4%（全国27.7%）であり、全国の平均正答率を上回っている。

今後とも指導に当たっては、身の回りのものや地図などから図形を見いだしたり、見いだした図形のどのような約束や性質を用いれば、日常生活の事象を解決できるか見通しを立てたりする活動が重要である。特に、図形を見いだす際には、図形を構成する辺の関係や長さ、角に注目し、示された情報の中から必要な情報を取り出して、一つの図形として理想化することが求められる。そのために、情報が複雑な場面を提示したり幾つかの情報を提示したりして、問題を解決するための情報を取り出す場の設定が必要である。また、図形の約束や性質を基に日常生活の事象を解決する活動を通して、日常生活と図形の関連について関心を高めることも大切である。




◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

2	(1)	○ 単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買い物の仕方を選択し、代金を求めること。
	(2)	○ 示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること。
3	(2)	○ 正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が $30^\circ$ になる理由を言葉と数、記号を用いて記述すること。

**2**

たか子さんは、おつかいに行きます。

(1) まず、トマトを7個買います。お店では、トマトを次のように売っていました。

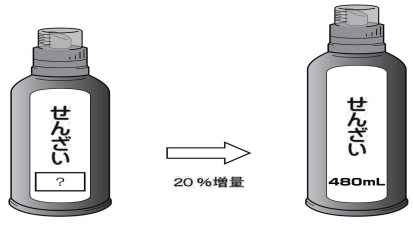
		
1個入りパック 100円	2個入りパック 180円	3個入りパック 270円

トマト7個の代金が最も安くなる買い方を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その買い方をしたときのトマト7個の代金を書きましょう。

- 1 1個入りパックを7つ買う。
- 2 2個入りパックを3つと、1個入りパックを1つ買う。
- 3 2個入りパックを2つと、3個入りパックを1つ買う。
- 4 3個入りパックを2つと、1個入りパックを1つ買う。

[正答] 3

(2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480 mLです。増量前のせんざいの量は何 mL ですか。求める式と答えを書きましょう。



[正答] 式(例)  $480 \div 1.2$       答え 400mL

**3** (2) 三角形ABCが正三角形であり、切り分けた2つの三角形が合同であることをもとに、⑦の角の大きさが  $30^\circ$  になるわけを、言葉と数を使って書きましょう。

必要ならば、下の図3中の記号を使ってもかまいません。

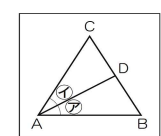


図3

[正答] (例)  
正三角形の一つの角の大きさは  $60^\circ$  です。合同な図形の対応する角の大きさは等しいので、⑦の角と①の角は等しくなります。だから、⑦の角は正三角形の一つの角の半分なので、⑦の角の大きさは  $30^\circ$  になります。

**2**(1)は、単位量当たりの大きさを用いて、日常生活の事象を合理的に判断し、処理することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 60.4 % (全国 64.8 %) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、二つまたはそれ以上の考え方を比較して、それぞれの方法が合理的であるか、どの方法がより能率的に処理できるかを話し合う場を設けるなど、合理的に判断し、能率的に処理できることよきを実感できるようにすることが大切である。

**2**(2)は、示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉え、基準量を求めることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 8.6 % (全国 13.1 %) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、基準量、比較量、割合の関係を数直線で表すなど、数量の関係を表現する活動を取り入れることが必要である。その際、初めに乗法構造の中で数量の関係を捉えた後、乗法の逆算としての除法の立式をすることが重要である。

**3**(2)は、事柄が成り立つ根拠を図形の性質を基に考え、説明することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 44.4 % (全国 49.1 %) であり、全国の平均正答率を下回っている。指導に当たっては、あることが成り立つことを説明するために、どのような性質と条件を用いればよいのかについて話し合う活動を取り入れることが重要である。その際、説明に不足している根拠を明らかにしていく必要がある。





(3) 小学校 理科 (公立)

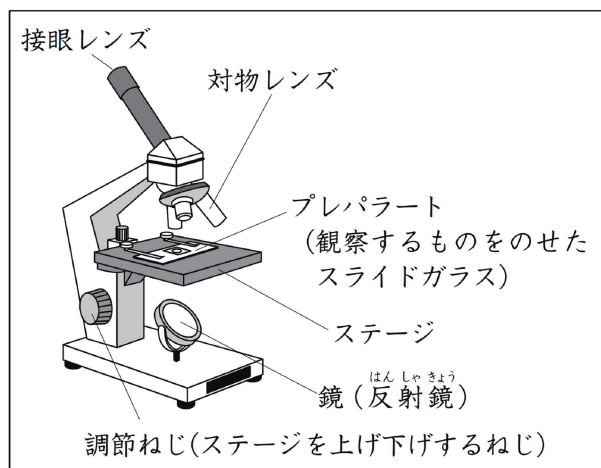
- 理科の平均正答率は60.7% (全国60.8%) であり、小学校理科については、おおむね全国平均である。
- 今後は、観察・実験後に、自分の予想や仮説と結果とを照らし合わせて考察をしたり、他者の考えを認識し、自分の考えを改善したりするような活動を一層重視する必要がある。

理 科	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	16,436	453	14.6/24	60.7%	15.0	4.9
全 国	1,060,792	19,861	14.6/24	60.8%	15.0	5.0

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題 (例)

② (3) 示された器具の名称を書くこと。【技能】

- (3) よし子さんは、インゲンマメの子葉の中にある養分を調べるために、下の図のような器具を使って観察することにしました。  
よし子さんが使った**器具の名前**を書きましょう。



よし子さんが使った器具

[正答] けんび鏡

インゲンマメのデンプン粒を対象として、顕微鏡の名称と操作について理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、顕微鏡の名称を理解し、目的に応じた適切な操作方法を身に付けていることが求められる。平均正答率は67.2% (全国は61.6%) であり、全国の平均正答率を上回っている。

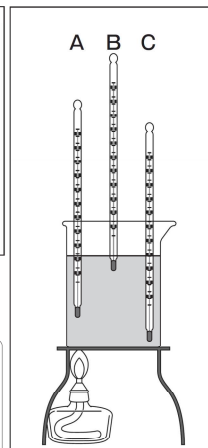
指導に当たっては、観察器具として顕微鏡の他に虫眼鏡や解剖顕微鏡を扱うが、観察対象に応じて適切に使い分けられることができるようにすることが大切である。また、観察用具を扱う際、単なる作業として扱うのではなく、自然の事物・現象を観察する中で、対象や目的に応じて意図的に操作できる技能として習得することが大切である。そのためには、顕微鏡の台数を可能な限り整備するとともに、試行錯誤しながら観察、実験を進められるように十分な時間を確保することが重要である。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

3 (3) 水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶこと。【改善】

(3) 実験した結果は、下の表のようになりました。

＜水の温度の上がり方＞					
	0分	2分後	4分後	6分後	8分後
温度計A	25℃	37℃	45℃	52℃	58℃
温度計B	25℃	34℃	41℃	48℃	54℃
温度計C	25℃	30℃	38℃	45℃	53℃



実験結果から、あたためられた水の動き方は、ぼくの予想とちがっていたな。  
この結果から考え直すと（イ）になるな。

あきらさんのことばの（イ）の中にあてはまるものを、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ゆかりさんの予想と同じ考え
- 2 としおさんの予想と同じ考え
- 3 りか子さんの予想と同じ考え
- 4 3人の予想とはちがう考え

【正答】 1

紅茶の葉が動く様子を対象として、水の温まり方について理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、実験の前にどのような実験結果が得られれば問題に対する予想が証明されたことになるのかについて見通しをもった上で実験を構想することが求められる。また、実験の後には、得られた実験結果から自らの予想が証明されたかどうかを判断し、必要に応じてより妥当な考えに改善することが求められる。平均正答率は47.0%（全国は51.7%）であり、全国の平均正答率を下回っている。実験結果を基に自分の考えを改善することに課題がある。

誤答については、「2」と解答した児童が26.4%（全国は22.8%）である。この結果からは、水の温まり方を熱せられた部分から順に温まる金属の温まり方と同じように捉えている児童が多いということが考えられる。

指導に当たっては、実験を行う前に問題に対する予想や仮説を明らかにし、話し合いを通して、自分の考えと他者の考えとの違いを捉えることが重要である。その際、金属や空気、水の温まり方を比較しながら考えさせることを重視したい。また、実験後には、実験の結果に自分の予想や仮説を照らし合わせて考察する活動を充実させる必要がある。個々の実験のデータを全体的に見直し、共通性や傾向性に着眼して考察していくことを大切にしたい。

【小学校理科における課題等】

- ◇ メダカのみすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶこと。〔2〕(1)〕
- ◇ 水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶこと。〔3〕(1)〕
- ◇ 地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶこと。〔4〕(6)〕
- ◆ 電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶこと。〔1〕(4)〕
- ◆ 水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶこと。〔3〕(2)〕
- ◆ 水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶこと。〔3〕(3)〕
- ◆ メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶこと。〔3〕(5)〕
- ◆ 水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書くこと。〔3〕(6)〕

※ ◇…相当数の児童ができている問題 ◆…課題のある問題  
〔 〕内の記号は、問題番号

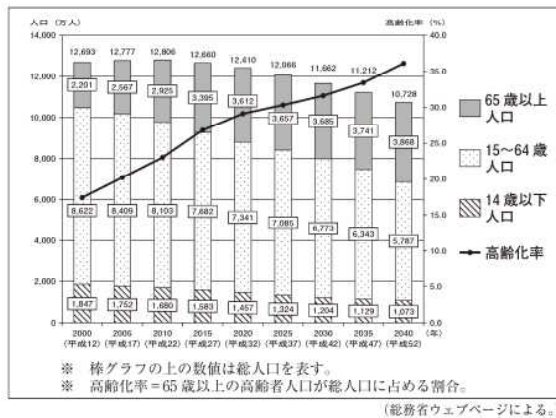
- メダカの雌雄を見分けること、水蒸気は水が気体になったものであることなどの「主として知識に関する問題」では、相当数の児童ができている。観察・実験の結果を基に導き出した概念や科学的な言葉を基礎的・基本的な事項として、各学校で指導を徹底してきた成果であると考えられる。
- 記述式による問題が3問あり、それらの問題の無回答の割合を見ると、〔1〕(3)〕が0.5%（全国は1.1%）、〔2〕(5)〕が1.3%（全国は2.8%）、〔3〕(6)〕が3.4%（全国が5.7%）であった。いずれの問題においても無回答の割合が全国平均を下回っており、授業において自分の考えをノートに書いたり、発表したりする活動を充実させてきた成果であると考えられる。
- 顕微鏡の名称を書くこと〔2〕(3)〕の平均正答率が67.2%（全国は61.6%）であり、全国の平均正答率を上回っている。しかし、無回答の割合が10.9%（全国は16.1%）であった。また、顕微鏡の適切な操作を選ぶこと〔2〕(4)〕の平均正答率が41.0%（全国は37.9%）であり、全国正答率を上回っているものの、顕微鏡の適切に操作することにも課題が見られる。器具の名称を理解し、用途に合わせて選び適切に操作することができるよう、様々な機会を通して、器具を使用して観察する活動を取り入れることが必要である。
- 解決の方向性を構想したり、問題の解決の方法を想定したりする「主として活用に関する問題」（構想）に課題が見られる。実験を始める前に結果の見通しをもち、その内容を発表したり説明したりするなどの学習活動が大切である。自分の予想が他者と異なるにもかかわらず、結果の見通しと同じになるのであれば、予想を確かめることができないことに気付き、実験前に実験方法を修正できるようにすることが大切になる。
- 実験結果を基に自分の考えを改善する「主として活用に関する問題」（改善）に課題が見られる。実験結果を基に、より妥当な考えに改善するには、実験前の自分の予想と実験で得られた結果を照らし合わせ、自分の予想が確認されたのかどうかを検討することが大切になる。自分の予想が実験結果と一致しない場合には、より妥当な考えに改善するために、予想を振り返り、見直し、再検討したり、他者の予想を振り返ったりして、自らの考えを修正し、結果から適切に考察できるようにすることが大切である。





◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

4 一 伝えたい事実を明確に書くこと。



4 次は、西暦二〇〇〇年以降の「日本の人口推移を表したグラフ」(予想を含みます)と、それを見て分かったことについて「田村さんが書いた文章」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

「日本の人口推移を表したグラフ」

「田村さんが書いた文章」

【正答例】

一 六十五歳以上の人口が増えていく (15字)

一 [ ]には、棒グラフの [ ]の部分の変化を読み取った内容が入ります。 [ ]に当てはまる言葉を、「田村さんが書いた文章」の書き方を参考にし、十五字以内で書きなさい。

まず、棒グラフを見て分かることが四つある。

- ・ 二〇一〇年以降、総人口が減っていく
- ・ 十四歳以下の人口が減っていく
- ・ 十五歳から十四歳の人口が減っていく

そして、折れ線グラフから、高齢化率が上昇し続けていくことが分かる。二〇四〇年には、二〇〇〇年の二倍以上になっていると予想されている。

「日本の人口推移を表したグラフ」と「田村さんが書いた文章」を基に、それぞれの資料を比較しながら情報を正確に読み取り、その事実を明確に書く問題である。平均正答率は、65.5%（全国 67.6%）であり、全国平均を下回っている。

前頁で「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」力が全国平均正答率よりも上回っているとされていながらも、同じ「書くこと」領域である設問 4 は下回った結果となっている。このことは、「伝えたい事実を明確に書くこと」を意識付けた授業の展開がなされていないことももちろん課題として挙げられるだろうが、いわゆる非連続型テキストへの対応不足も一つの要因として考えられる。

文章中から情報を抜き出していく学習活動だけではなく、説明的文章に挿入されているグラフや図表などからどのような情報を読み取ることができるのか、また、その図表と文章との整合性はどのように図られているのかなど、文章だけではなく非連続型テキストにも目を向けさせる実践が求められる。

さらに、その読み取った情報を書く際に意識させたいことは、自分が書いた文章の中に、自分の考えについての根拠が明確に書かれているかどうかを常に吟味していくことである。図表などを用いた説明や記録の文章を書く際には、図表などから無目的に情報を得るのではなく、目的や必要に応じて、同じ図表からでも異なる見方がないかなど、目的意識をしっかりとった言語活動を授業の中に取り入れていきたい。

② 国語B（主として「活用」に関する問題）

国語B	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,215	227	5.8/9	64.5%	6.0	1.9
全国	1,016,575	9,689	5.9/9	65.8%	6.0	2.0

◇ 今回の調査において、おおむね全国平均の問題（例）

2 一 目的に応じて文章を要約すること。

二 (C) 雑誌の記事の一部に書かれていることとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 リハビリテーションやレスキュー活動などを支援する装着型ロボットが、日本では既に普及しているというところ。
- 2 空港でのパトロールなどに使用されている搭乗型ロボットが、十年以上前に、日本で初めて開発されたというところ。
- 3 装着した人の意思を読み取り身体を動かすサポートする装着型ロボットの開発が、日本では進められているというところ。
- 4 人の移動を支援する搭乗型ロボットが、身体機能の回復のために役立つように、日本で改良されているというところ。

一 (A) ウェブページの文章の内容について述べた次の文章のものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

オリンピック・パラリンピック招致の際に、日本は、二〇二〇年の大会開催に向けて世界に約束できるもの。日本は、東日本大震災以降、日本人があらためて気づいたことについて訴えた。

ア オリンピック・パラリンピック招致の際に、日本は、二〇二〇年の大会開催に向けて世界に約束できるもの。日本は、東日本大震災以降、日本人があらためて気づいたことについて訴えた。

イ 社会の価値観向上

エ スポーツの真の力

オ 子供たちの笑顔

カ テクノロジー

キ アスリートの役割

二 (B) 日本の人口推移を表したグラフ

三 (C) 雑誌の記事の一部

生活を支えるロボットの開発

世界では、様々なロボットの開発が進められている。例えば、人の移動を支援する搭乗型ロボット。このロボットの中には、10年以上前から実用化されているものもあり、空港でのパトロールなどに使われている。現在、日本では、「生活支援ロボット」の開発が行われている。誰でも簡単に乗り降りでき、日常生活での移動を助ける搭乗型ロボットの開発に加え、装着型ロボットの開発も進んでいる。これは、装着した人の意思を読み取って身体の動きをサポートするロボットである。身体機能の回復のためのリハビリテーションなどで既に一部導入されているが、今後は、足腰の弱った人の歩行支援、重い荷物の持ち上げ、レスキュー活動など、幅広い場面での活用が期待されている。このように、人間の生活を支援するロボットの開発が、日進月進められているのだ。

【正答】  
2

「ウェブページの文章」「日本の人口推移を表したグラフ」「雑誌の記事の一部」の三つの資料が示されており、これらの資料から必要な情報を読み取り、関連させて読む問題である。設問一は「ウェブページの文章」を目的に応じて要約することができるかどうかをみる問題である。正答率は82.2%（全国82.6%）であり、おおむね全国平均である。説明的文章において、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄を捉える際には、文章の構成や特徴を踏まえたり、グラフや図表と関係付けたりして内容を理解することが大切である。

設問二は「雑誌の記事の一部」の要旨を捉えることができるかどうかをみる問題である。こちらの正答率は66.2%（全国67.8%）であり、全国の平均正答率を下回っている。いずれも学習指導要領の「読むこと」における「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること」からの出題である。

指導に当たっては、叙述や指示語などに注目させて段落相互の関係を検討して文章の構成を確認すること、キーワードを抜き出すこと、また、キーワード同士の関係を整理して文章の内容や筆者の意見を読み取ることを通して、文章を要約したり要旨を捉えたりする力を育成していきたい。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

<p>3 一 二 三</p>	<p>表現の工夫について自分の考えをもつこと。 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。</p>
<p>[正答] 一 4 二 2 三 (例)</p>	<p>最後の一文はあった方がよいと思います。なぜなら、最後が真っ暗闇で終われば、暗闇の恐ろしさが繰り返される展開になるため、読み手の恐怖感が一層増すと思うからです。(80字)</p>
<p>問題の素材として初めて翻訳が取り上げられた。江戸時代後期を舞台とした短編「のっぺらぼう」の話としてなじみのある小泉八雲の怪談「貉」である。その一部を読み、表現の工夫について自分の考えをもつこと（設問一、二）、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと（設問三）をみる問題が出題され、平均正答率は設問一が 88.0%（全国 88.6%）、設問二が 82.0%（全国 82.6%）、設問三は 27.3%（全国 31.1%）であり、いずれも全国平均正答率を下回っている。</p> <p>文学的な文章を読む際には、内容だけでなく豊かな表現を味わいながら読むことを大切に指導したい。心情や情景の描写などの細部の表現に注意して読むことと文章全体を俯瞰して読むことを意図的に取り入れる必要がある。設問一、二においては、登場人物の言動や情景を表す言葉に注目することが大切であり、普段の授業から心掛けたい。</p> <p>設問三は、「文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げ、根拠を明確にして自分の考えを書く」設問である。指導に当たっては、自分の考えをまとめたり述べたりする際に、根拠をもとに、その理由を明確にさせることが大切である。この設問においても「話の展開を取り上げていない」「展開を説明するだけで、理由を示していない」解答が見られるのはその点の指導の充実が求められていると言える。根拠と理由を明確に区別すること、意見を交わすこと、自分の考えを修正、転換などを行うことにより、思考力、判断力、表現力等の育成につながると考える。条件作文については、「定着確認シート」の設問を授業や定期テスト等において効果的に活用するなど、指導の工夫が必要である。</p>	<div data-bbox="1316 347 1364 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ 次の文章は、小泉八雲が英語で書いた怪談「貉」の翻訳の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。</p> </div> <div data-bbox="1157 369 1300 1097" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>（ここまでのあらすじ） 東京の赤坂にある紀伊國坂は、昔、日が暮れた後は人通りが少なく寂しい場所です。人を化かす「貉」という生き物が出没すると言われていた。そのため、人々は日没後、一人だけこの坂をのぼるよりも、回り道をしたものだった。ある日の夜、急ぎ足で紀伊國坂をのぼっていた二人の男が、おぼろげそばで若い女がうずくまって泣いていることに気付いた。男は心配して若い女に声をかけたが、返事は無い。</p> </div> <div data-bbox="1077 392 1141 728" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>（小泉八雲「貉」による。）</p> </div> <div data-bbox="981 347 1061 1097" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一 ―線部「お泣きなさんな」は、原文では「Don't cry」（泣いてはいけない）の意味）と書かれています。この部分を「お泣きなさんな」と翻訳したことによって、どのような効果をあげますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。</p> </div> <div data-bbox="853 358 965 817" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 面倒なことに関わりたくないと思っっている、男の冷淡な人柄を伝える効果。 2 寂しい場所の人に話しかけられたため、男がおびえている様子を伝える効果。 3 若い女の身勝手な要求に対して、男が腹を立てている様子を伝える効果。 4 若い女を助けてやりたいと思っっている、男の優しい人柄を伝える効果。</p> </div> <div data-bbox="774 347 805 996" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>二 本文中の「……」で囲まれた部分の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。</p> </div> <div data-bbox="646 358 758 974" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 暗闇の中で見付けた光が小さくなっていく情景と、男の希望が失われていく様子を重ねて書いている。 2 暗闇の中で見付けた光が大きくなっていく情景と、男が懸命に救いを求める様子を重ねて書いている。 3 暗闇の中で見付けた光が小さくなっていく情景と、男の緊張感が徐々に高まる様子を重ねて書いている。 4 暗闇の中で見付けた光が大きくなっていく情景と、男が必死に相手に立ち向かう様子を重ねて書いている。</p> </div> <div data-bbox="518 358 614 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>三 中学生の山田さんは、以前に読んだ昔話「のっぺらぼう」の最後は、蕎麦屋のつぺらぼうになったところで終わっていたことを思い出しました。あなたは、「貉」の「……」そして、それと同時に、「屋台の火も消えた」という最後の一文は、あった方がよいと思いますか、ない方がよいと思いますか。あなたの考えとその理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。</p> <p>なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。</p> </div> <div data-bbox="406 369 486 840" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>条件1 最後の一文があった方がよいか、ない方がよいかを明確にして書くこと。 条件2 話の展開を取り上げて、理由を書くこと。 条件3 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。</p> </div>

【中学校国語における課題等】

- ◇ (A) 相手の反応を踏まえて話すこと。〔1一〕
- ◇ (A) 文章から適切な情報を得て、考えをまとめること。〔5一〕
- ◇ (A) 文脈に即して漢字を正しく読むこと。〔9二〕
- ◇ (B) 効果的な資料を作成し、活用して話すこと〔1二〕
- ◆ (A) 表現の技法について理解していること。〔3一〕
- ◆ (A) 単語の類別について理解していること。〔9四〕
- ◆ (B) 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具合的に書くこと。〔1三〕
- ◆ (B) 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと。〔2三〕
- ◆ (B) 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。〔3三〕

※ ◇…相当数の生徒ができている問題 ◆…課題のある問題  
( ) 内の記号は、A…国語A、B…国語B [ ] 内の記号は、問題番号

- 「文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりすること」「語句の意味を理解し、文脈の中で正しく使うこと」など、言語生活に関する基礎的・基本的な知識や技能に関しては、相当数の生徒ができている。さらなる定着に向けて、積極的に国語辞典を活用する場面を設定し、実際の文章の中で使うよう繰り返し指導したい。言語事項における課題は、表現技法の理解と単語の識別である。表現技法については、表現の技法の名称を具体的な表現と結び、その効果について気付いたことを話し合うことにより理解を深めたい。単語の識別についても具体的な文章を通して考えるよう指導することが大切である。どちらも各領域の学習の中で、意図的・計画的に取り上げ、知識の定着を図りたい。
- 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことに課題が見られた。スピーチやプレゼンテーションをする際には、自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう話の構成や展開を工夫する必要がある。どのような資料をどのタイミングで提示するのかを考えたり、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えたりするなどの学習活動を取り入れたい。また、発表後に、説明した内容や資料を提示したタイミングなどについて、なぜそうしたのかという理由を互いに説明し合い、その効果を確認することも大切である。
- 複数の多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりすることに課題が見られた。日常生活において出合った複数の本や資料から得た情報を既存の知識や自分と結びつけて考えることが重要である。その際、それぞれの資料に書かれていることを正確に理解した上で、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気付きや問題意識を明らかにしたい。また、自分の考えを深めたり広げたりするためには、主体的に学校図書館、インターネットなどから情報を探すことも必要である。多様な情報を関連付けて読むことの指導に当たっては、新聞なども有効な教材である。
- 根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られた。自分が感じたことや考えたことの根拠を文章の一説や文章の展開に照らして明らかにすることが重要であり、自分の考えの妥当性について、意見を述べ合う学習活動を展開したい。



(5) 中学校 数学 (公立)

- 数学Aの平均正答率は61.2% (全国64.4%)、数学Bの平均正答率は38.1% (全国41.6%)であり、中学校数学については、全国平均を下回っている。
- 今後は、数学的活動をより一層重視し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導の充実とそれらを活用する力の育成に向けた指導の工夫・改善を図る必要がある。

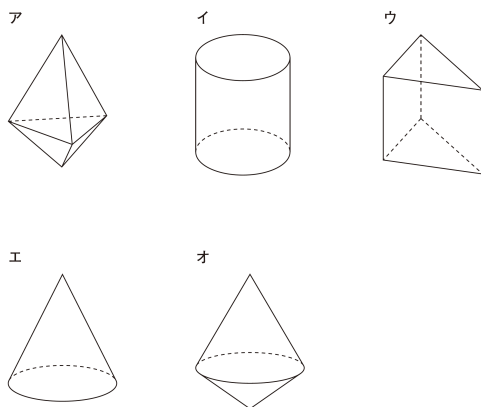
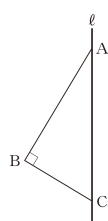
① 数学A (主として「知識」に関する問題)

数学A	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,219	227	22.0/36	61.2%	23.0	8.0
全国	1,016,737	9,687	23.2/36	64.4%	24.0	8.0

◇ 今回の調査において、全国平均正答率を上回っている問題 (例)

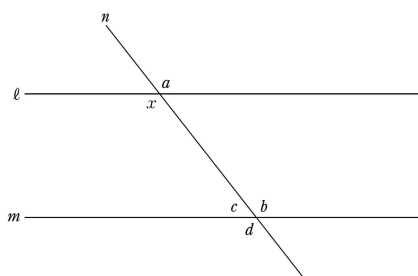
- ⑤ (2) ○ 平面図形の運動による空間図形の構成について理解すること。
- ⑥ (1) ○ 同位角の意味を理解すること。

⑤ (2) 右の図の直角三角形ABCを、直線 $\ell$ を軸として1回転させて立体をつくります。このとき、できる立体の見取図が下のアからオまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。



[正答] オ

⑥ (1) 次の図で、平行な2つの直線 $\ell$ 、 $m$ に1つの直線 $n$ が交わっています。このとき、 $\angle x$ の同位角について、下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。



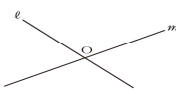
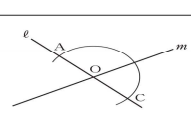
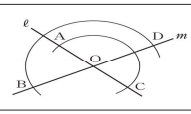
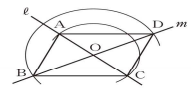
- ア  $\angle x$ の同位角は、 $\angle a$ である。
- イ  $\angle x$ の同位角は、 $\angle b$ である。
- ウ  $\angle x$ の同位角は、 $\angle c$ である。
- エ  $\angle x$ の同位角は、 $\angle d$ である。
- オ  $\angle x$ の同位角は、 $\angle a$ から $\angle d$ までの中にはない。

[正答] エ

⑤(2)は、回転体に関する問題で、直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の見取図を選ぶことができるかどうか、⑥(1)は、同位角の意味を理解しているかどうかをみる問題である。平均正答率は⑤(2)が83.7% (全国83.4%)、⑥(1)が80.7% (全国80.3%)であり、いずれも全国平均正答率を上回っている。

今後も、実際の長方形や直角三角形などの平面図形の1辺を軸として回転させ、その様子を観察させたり、コンピュータを活用したりするなど、線や面の運動について動的に捉えることができるようにしながら、平面図形と空間図形を関連付けて考察する場面を大切にしたい。また、同位角や錯角の理解については、2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角の位置関係を捉えたり、大きさを測定したりして、同位角や錯角の関係になっている角を見いだす活動を大切にしたい。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

<p><b>3</b> (3) ○ 事象における数量関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること。</p> <p>(4) ○ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。</p> <p><b>7</b> (3) ○ 作図の根拠として用いられる平行四辺形になるための条件を理解すること。</p>	<p><b>3</b> (3) 次の問題について考えます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">問題</p> <p>ある中学校の今年度の入学者数は男女合わせて223人で、昨年度の入学者数より3人増えました。男子は昨年度より5%増え、女子は昨年度より3%減りました。昨年度の男子の入学者数と女子の入学者数を求めなさい。</p> </div> <p>この問題を解くために、昨年度の男子の入学者数を <math>x</math> 人、昨年度の女子の入学者数を <math>y</math> 人として、連立方程式をつくります。次の <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 50px; height: 15px; vertical-align: middle;"></span> に当てはまる式として正しいものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <math display="block">\begin{cases} x + y = 220 \\ \text{ア} \end{cases} = 223</math> </div> <p>ア <math>0.05x + 0.03y</math></p> <p>イ <math>0.05x - 0.03y</math></p> <p>ウ <math>1.05x + 0.97y</math></p> <p>エ <math>1.05x - 0.97y</math></p> <p>(4) 連立方程式 <math>\begin{cases} 4x + 2y = 5 \\ x + y = 2 \end{cases}</math> を解きなさい。</p> <p>[正答] <b>3</b>(3) ウ</p> <p><b>3</b>(4) <math>x = \frac{1}{2}</math> , <math>y = \frac{3}{2}</math></p> <p>[正答] <b>7</b> (3) エ</p>
	<p><b>7</b> (3) 下の図のように、点Oで交わる2つの直線 <math>\ell</math>、<math>m</math> があります。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>下の①、②、③の手順で点A、点B、点C、点Dをとり、平行四辺形ABCDをかきます。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <p>① 点Oを中心として円をかき、直線 <math>\ell</math> との交点を点A、点Cとする。</p>  </div> <div style="margin: 10px 0;"> <p>② 点Oを中心として別の円をかき、直線 <math>m</math> との交点を点B、点Dとする。</p>  </div> <div style="margin: 10px 0;"> <p>③ 点A、点B、点C、点Dを順に結ぶ。</p>  </div> <p>前ページの①、②、③の手順では、どのようなことがらを根拠にして平行四辺形ABCDをかいていますか。下のアからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行な四角形は、平行四辺形である。</p> <p>イ 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。</p> <p>ウ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。</p> <p>エ 対角線がそれぞれの中点で交わる四角形は、平行四辺形である。</p> <p>オ 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しい四角形は、平行四辺形である。</p>

**3**(3)は、事象における数量関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができるかどうか、**3**(4)は、連立二元一次方程式を解くことができるかどうか、**7**(3)は、作図の根拠として用いられる平行四辺形になるための条件を見いだせるかどうかをみる問題である。平均正答率は**3**(3)が 36.3 % (全国 44.9 %)、**3**(4)が 49.3 % (全国 56.8 %)、**7**(3)が 41.5 % (全国 48.1 %) であり、いずれも全国平均正答率を下回っており、数学Aでは**3**(3)や**7**(3)の正答率において全国との差が大きい。また、**3**(3)においては、「イ」を選ぶ生徒の割合が多く、昨年度の連立方程式の問題と比較すると、割合を含んだ方程式の立式に課題が見られる。

指導に当たっては、方程式をつくる際には、問題文に示されている情報を「今年度」「昨年度」「男子」「女子」という視点で表に整理する際に、入学者の増減に着目した式だけでなく、それを踏まえた今年度の入学者数を表した式をもとに相等関係にあるものを見いだす活動を取り入れることが大切である。また、連立方程式を解く問題では、どちらかの解である分数を代入した後の計算過程につまずきがあると考えられる。誤った変形や計算過程を指摘し修正することができるように指導することも大切にしてほしい。さらに、**7**(3)の平行四辺形になるための条件を指摘する問題では、選択肢「ア」「イ」「ウ」の反応率を合わせると 40 %を超えている。平行四辺形の定義や性質と混同していることが考えられる。平行四辺形になるための条件を具体的な場面で捉え、用いることができるように指導することが大切である。

② 数学B（主として「活用」に関する問題）

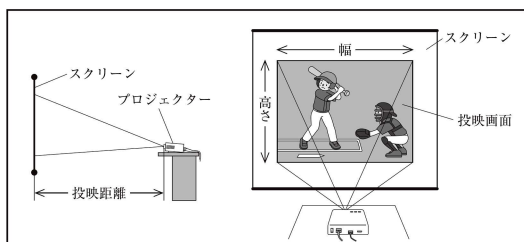
数学B	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,215	227	5.7/15	38.1%	5.0	3.6
全国	1,016,548	9,687	6.2/15	41.6%	6.0	3.8

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題

1 (2) ○ 与えられた情報から必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈すること。

1 健治さんの学校では、新入生歓迎会のときに、体育館で部活動紹介の映像を流します。映像は、プロジェクターでスクリーンに映し出します。そこで、健治さんはプロジェクターの置き場所を決めるために、プロジェクターについてインターネットで調べました。

健治さんが調べたこと

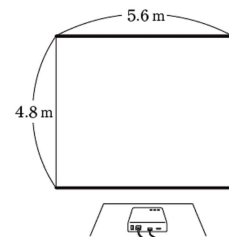


投映距離 (m)	投映画面の大きさ		
	高さ(m)	幅(m)	面積(m <sup>2</sup> )
1.0	0.6	0.8	0.48
1.5	0.9	1.2	1.08
2.0	1.2	1.6	1.92

- 投映画面の大きさは、投映距離によって変わる。
- 投映画面の形は、調整されて、いつも長方形になる。
- 投映画面の高さや幅は、投映距離に比例する。

(2) スクリーンの高さは4.8m、幅は5.6mです。投映画面を、スクリーンからはみ出ないようにして、できるだけ大きく映し出すためには、投映距離を何mにすればよいですか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 5m
- イ 6m
- ウ 7m
- エ 8m



[正答] ウ

与えられた情報から必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は36.9%（全国35.1%）であり、全国の平均正答率を上回っている。

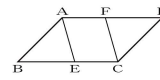
指導に当たっては、今後も、実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れ、与えられた情報から目的に応じて必要な情報を適切に選択し、事象に即して数学を活用できるように指導することを大切にしたい。

また、解答類型をみると、「イ」や「エ」を選択する生徒の割合が50%を超えていることから、投映画面の高さがスクリーンの高さと同じになるときの投映距離を求めたり、スクリーンの高さや幅を取り違えたりしている生徒が多いと考えられる。

本設問を使って授業を行う際には、プロジェクターの投映距離（ $x$  m）と投映画面の高さ（ $y$  m）、投映距離（ $x$  m）と投映画面の幅（ $z$  m）の関係をそれぞれ式に表す活動を取り入れ、表された式  $y = 0.6x$ 、 $z = 0.8x$  から、高さや幅の2つを満たすことを踏まえて「投映画面をスクリーンからはみ出さないようにして、できるだけ大きく映し出すため」の投映距離を求めることができるように指導することが大切である。



◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

<p>2 (2) ○ 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明すること。</p> <p>4 (2) ○ 発展的に考え、条件を変えた場合について証明すること。</p>	<p>2 (2) 前ページの予想がいつでも成り立つことを説明します。下の説明を完成しなさい。</p> <p>説明</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>連続する3つの整数のうち最も小さい整数を <math>n</math> とすると、連続する3つの整数は、<math>n, n+1, n+2</math> と表される。それらの和は、</p> <p><math>n+(n+1)+(n+2)=</math></p> </div> <p>[正答例]</p> <p><math>3(n+1)</math>  <math>n+1</math> は中央の整数だから、  <math>3(n+1)</math> は、中央の整数の3倍である。  したがって、連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍である。</p>
<p>4 (2) 桃子さんは、問題の正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、<math>AE=CF</math> となることを証明できることに気づきました。桃子さんの証明の……の中を書き直し、正方形を平行四辺形に変えたときの証明を完成しなさい。</p>	<div style="display: flex; align-items: center;">  </div> <p>証明</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><math>\triangle ABE</math> と <math>\triangle CDF</math> において、  仮定より、  <math>BE=DF</math> ……①</p> <p>①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、  <math>\triangle ABE \cong \triangle CDF</math>  合同な図形の対応する辺は等しいから、  <math>AE=CF</math></p> </div> <p>[正答例]</p> <p>平行四辺形の対辺は等しいから  <math>AB=CD</math> ……②  平行四辺形の対角は等しいから  <math>\angle ABE = \angle CDF</math> ……③</p>

2(2)は、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することができるかどうか、4(2)は、発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は2(2)が36.0%（全国43.1%）、4(2)が42.3%（全国49.6%）であり、いずれも全国平均正答率を下回っており、数学Bでは正答率において全国との差が大きい。

2(2)については、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、根拠を明らかにする場面を設定し、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、 $3n+3$  という表現にとどまっているものを取り上げ、「中央の整数の3倍になる」ことを示すためには、「 $3 \times$ （中央の整数）」という形の式で表せばよいことから、 $3(n+1)$  と変形できるように指導することが大切である。さらに、 $n+1$  が中央の整数であることを示す必要があることから、「 $n+1$  は中央の整数だから、 $3(n+1)$  は中央の整数の3倍である。」というような表現にするなどして、説明を改善していく活動を取り入れることが考えられる。その際、「連続する3つの整数の和は、3の倍数になる。」という予想を説明する場合には、「 $n+1$  は整数だから、 $3(n+1)$  は3の倍数である。」という表現になることと比較することによって、示すべき根拠を明らかにして説明することができるように指導していくことが大切である。

4(2)については、証明を読み、結論を導くために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定し、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、証明に用いた合同条件「2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい」と相等関係「 $BE=DF$ 、 $AB=CD$ 、 $\angle ABE = \angle CDF = 90^\circ$ 」を照らし合わせ、正方形の場合の証明において  $90^\circ$  という条件を用いていないことを見いだすことによって、正方形を平行四辺形に変えても同じ結論  $AE=CF$  が成り立つことを導く場面を設定したり、コンピュータを利用して、平行四辺形だけでなく長方形やひし形に変えても同じ結論が成り立つことを視覚的に捉えることができるようにしたりすることが考えられる。

【中学校数学科における課題等】

- ◇(A) 比の意味を理解していること。〔1〕(1)〕
- ◇(A) 一次式の減法の計算ができること。〔2〕(1)〕
- ◇(A) 直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解していること。〔5〕(2)〕
- ◇(A) 与えられた投影図から空間図形を読み取ること。〔5〕(3)〕
- ◇(A) 与えられた資料の度数分布表のある階級の度数を求めること。〔14〕(2)〕
- ◆(A) 数量の関係を文字式に表すこと。〔2〕(2)〕
- ◆(A) 具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること。〔3〕(3)〕
- ◆(A) 証明の必要性和意味を理解していること。〔8〕
- ◆(B) 事象を式の意味に即して解釈し、その結果について、数学的な表現を用いて説明すること。〔1〕(3)〕
- ◆(B) 事象を図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて数学的に説明すること。〔3〕(2)〕
- ◆(B) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。〔5〕(2)〕

※ ◇…相当数の生徒ができていない問題      ◆…課題のある問題  
 ( ) 内の記号は、A…数学A、B…数学B、〔 〕内の記号は、問題番号

- 比の意味、一次式の計算、直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解していることや与えられた投影図から空間図形を読み取ること、ある階級の度数を求めることについては相当数の生徒ができていない。
- 「資料の活用」については、引き続き課題はあるが、ある階級の度数を求めることが全国平均正答率を上回っている。  
 (27年度A〔14〕(2))ある階級の度数を求める。(正答率本県：77.5%、全国：75.9%)  
 また、数学Aの「資料の活用」の平均正答率について、過去3年間の推移を見ると、全国との差が小さくなってきている。  
 (25年度の差-4.4) (26年度の差-4.4) (27年度の差-1.4)
- 〔2〕(2)の数量の関係を文字式に表す問題の正答率は、17.7% (全国は22.2%)であった。過去の関連する問題 (今回調査対象生徒が小学校第6学年当時に実施した算数A〔3〕(2))を見ても、44.2% (抽出) (全国は41.1%)であったことから、文字式に表すことについては引き続き課題である。また、〔8〕の証明の必要性和意味を理解することについても、24.6% (全国は25.8%)であり、「4年間のまとめ【中学校編】」でも述べられているように、本県でも引き続き課題である。
- B〔1〕(3)は、プロジェクターの問題で、映像の明るさと投映画面の面積の関係式から、映像の明るさを2倍にする方法を選択し、その理由を説明する問題である。平均正答率は9.5% (全国は11.7%)であり、今回の調査問題の中で最も低い正答率である。
- Bの記述式の問題では、7問中6問で無解答率が全国平均を上回っており、〔3〕(2)では50%を超えている。式の意味に即して考え、その結果を説明したり、図形の性質を用いて説明したり、資料の傾向や判断の理由を説明したりするなどの活動を意図的に設定し、学んだ用語や数学的な表現を用いて記述する活動を充実することが大切である。

(6) 中学校 理科 (公立)

- 理科の平均正答率は52.5%(全国は53.0%)であり、中学校理科については、おおむね全国平均である。
- 主として「知識」(基礎的・基本的な知識・技能)に関する問題は、全国の平均正答率を上回っているものが多い。しかし、主として「活用」(知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等)をみる問題については全国の平均正答率を下回っているものが多い。今後は、科学的な探究の過程を踏まえ、知識・技能を活用して課題を解決する授業展開に心がけていく必要がある。

理 科	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
福島県	17,217	227	13.1 / 25	52.5 %	13.0	5.6
全 国	1,016,572	9,689	13.3 / 25	53.0 %	13.0	5.7

◇ 今回の調査において、全国の平均正答率を上回っている問題 (例)

- 2 (1) 天気図から風力を読み取ること。【知識】  
 2 (2) 天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶこと。【知識】

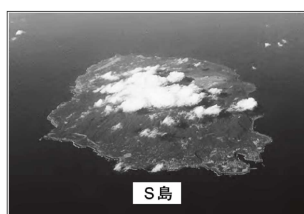


図1

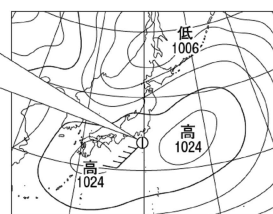
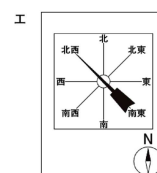
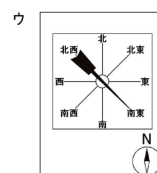
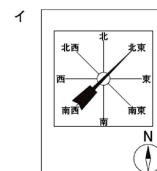
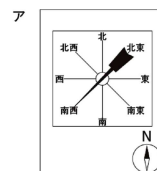


図2



図4



(1) 図2で示されているS島における風力を書きなさい。

(2) 図2で示されているS島における風向を、図4の風向計を用いて観測したとき、風向計を真上から見たものとして最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

[正答]  
 (1) 5  
 (2) ア

(1) は天気の記事から風力を読み取ることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 80.9 % (全国は 77.9 %) であり、全国平均を上回っている。(2) は天気の記事から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測することができるかどうかをみる問題である。平均正答率は 50.4 % (全国は 48.6 %) であり、全国平均を上回っている。(2) の誤答については、イを選択した生徒が 40.7 % で、天気の記事から南西の風と読み取れているが、風向計の矢羽根が示す向きが風向を示しているという観測の技能を習得できていないと考えられる。

指導に当たっては、継続的に気象観測を行い、風向、風力を観測し、それを記録するといった学習場面を設定することなどが考えられる。さらに、観測時の体験と天気図を関連付け、実感を伴った理解ができるようにすることが大切である。例として、風向計を自作し、観測に活用することで、風向計の原理や仕組みの理解を図り、観測技能を身に付けさせることが考えられる。また、風力階級表などから、風向、風力の観測を日常生活と結び付けた指導により理科を学ぶ意義に気付かせることも重要である。

◆ 今回の調査において、課題の見られる問題（例）

1 (4) 炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶこと。【活用】

蒸しパンの記事に関すること2

太郎：蒸しパンの生地に炭酸水素ナトリウムを加えて加熱しても、あまりふくらまなかったよ。  
 次郎：ほくがかったときは、ふくらんだよ。加熱する温度が違ったのかな。  
 花子：温度を変えて、ふくらみについて調べてみよう。

ふくらみは二酸化炭素の発生によることから、花子さんたちは、3つのアルミカップに炭酸水素ナトリウムを5gずつ入れ、実験用ホットプレート(図2)の温度を50℃、150℃、250℃にして、それぞれ10分間加熱して質量の変化を調べました。  
 図3は、「加熱した時間」と「アルミカップ内の物質の質量」の関係を表したグラフです。



図2

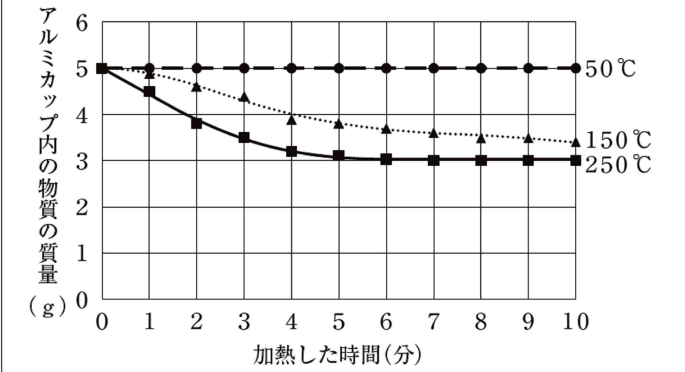


図3

(4) 図3のグラフから、化学変化について読みとれることとして最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 50℃では、ある時間から化学変化が起きている。
- イ 150℃では、ある時間から化学変化が起きている。
- ウ 250℃では、ある時間から化学変化が起きている。
- エ 温度に関係なく、化学変化が起きている。

[正答] ウ

「加熱した時間」と「アルミカップ内の物質の質量」の関係を表したグラフを分析して解釈し、温度を変えて炭酸水素ナトリウムを加熱した時の質量の変化から、化学変化について正しく読み取ることができるかどうかをみる問題である。平均正答率は70.6%(全国は73.6%)であり、全国平均を下回っている。誤答については、「イ 150℃では、ある時間から化学変化が起きている。」を選択した生徒は13.4%(全国は11.6%)で、全国平均を上回っている。これは、150℃では質量が減少し続けているので、化学変化が起きているということをグラフから読み取れていないと考えられる。

指導に当たっては、測定結果を表やグラフにして関係性を見いだしていく際、測定結果のまとめ方、グラフの作成の仕方などを丁寧に指導していく必要がある。さらに、グラフを分析して、解釈できるようにするには、グラフの縦軸を従属変数(変化すること)として、横軸を独立変数(変化することの原因として考えられる要因)として捉えたり、複数のグラフの特徴を比較するなどの学習場面を設定することが重要である。また、従属変数が複数ある実験の結果を分析して規則性を見いだすことも大切である。※参照4(1)

【中学校理科における課題等】

- ◇ 塩化ナトリウムの化学式を選ぶこと。〔1〕(1) 化学式
- ◇ 天気図から風力を読み取ること。〔2〕(1)
- ◆ 濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求めること。〔1〕(1) 濃度
- ◆ 同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶこと。〔1〕(2)
- ◆ 炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶこと。〔1〕(4)
- ◆ 湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善すること。〔2〕(3)
- ◆ 上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶこと。〔3〕(2)
- ◆ 実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶこと。〔4〕(1)
- ◆ 抵抗に加わる電圧と流れる電流から抵抗の大きさを計算して求める。〔5〕(1)
- ◆ 課題に対して適切な考察になるように修正する。〔8〕(3)

※ ◇…相当数の生徒ができていない問題 ◆…課題のある問題  
〔 〕内の記号は、問題番号

- 化学式に関する問題や天気図から風力を読み取る問題は80%以上の生徒ができています。また、デンプンが消化されたときにできる物質として、ブドウ糖を選ぶ問題は、正答率74.7% (全国72.2%)、背骨のある動物を脊椎動物と表す問題は、正答率71.0% (全国63.9%)であり、いずれも全国正答率を上回っている。今後は、基礎的な知識のより確実な定着に向けて、身に付けた知識を活用する場面を多く設定していくことが大切である。
- 主として「活用」に関する問題については、正答率が低く、特に、観察・実験の結果などを分析して解釈する問題には、全国平均正答率との差が大きいものがある。観察・実験の結果を分析して解釈できるようにするために、観察・実験の結果を予想や仮設と比較したり、理科で学習した知識・技能と関連付けたりする視点を示すことが大切である。また、生徒が小学校で培った問題解決の能力を踏まえた助言指導をすることがポイントである。
- 今回及び過去の調査結果から計算をして求める問題に課題があると言える。  
平成24年度〔4〕(1) 質量パーセント濃度における水溶液の溶質の質量と水の質量を求めること 平均正答率は50.1% (全国49.8%)  
平成27年度〔1〕(1) 濃度 上記の〔4〕(1)を濃度及び食塩水の質量の値を変えて出題されたもの 平均正答率が42.6% (全国45.0%)  
平成27年度〔5〕(1) 抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求めること 平均正答率が57.3% (全国59.6%)  
指導に当たっては、公式に数値を当てはめて計算して求めるだけでなく、質量パーセント濃度を小学校算数科で学習した割合の関係として捉えさせたり、電圧と電流のグラフから抵抗値の違いを確認したりするなど、質量パーセント濃度や抵抗についての理解を深める工夫が必要である。

### Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果

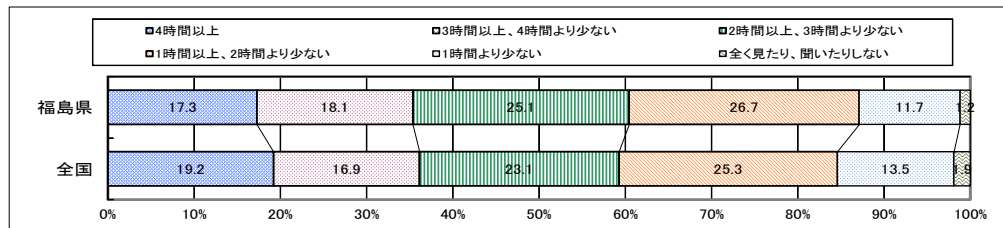
※ 主なものを取り上げた。

(1) 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）」について

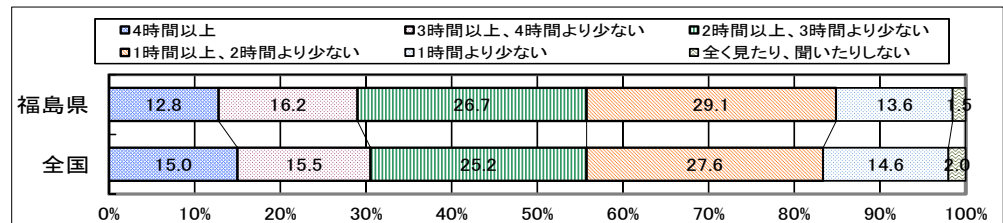
〈質問番号〉：(10)

- 月～金曜日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり聞いたりしている小学生の割合は35.4%、中学生の割合は29.0%であり、どちらも全国の割合（小：36.1%、中：30.5%）より低い。
- 26年度調査と比較すると、月～金曜日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり聞いたりしている割合は、小学生で2.7ポイント低く、中学生では0.2ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

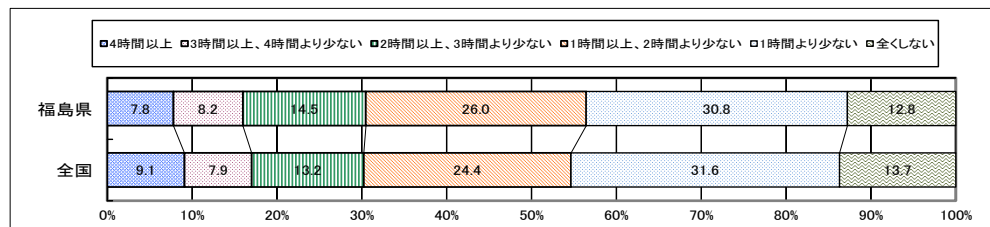


(2) 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について

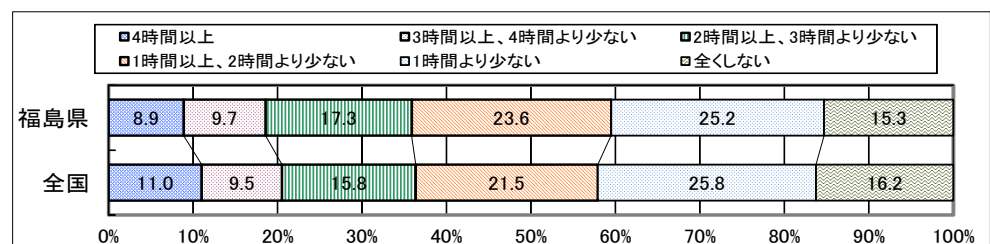
〈質問番号〉：(11)

- 月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している小学生の割合は30.5%、中学生の割合は35.9%であり、小学生の割合は全国の割合（30.2%）より高く、中学生の割合は全国の割合（36.3%）より低い。
- 26年度調査と比較すると、月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している割合は、小学生で0.9ポイント低く、中学生では1.5ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】



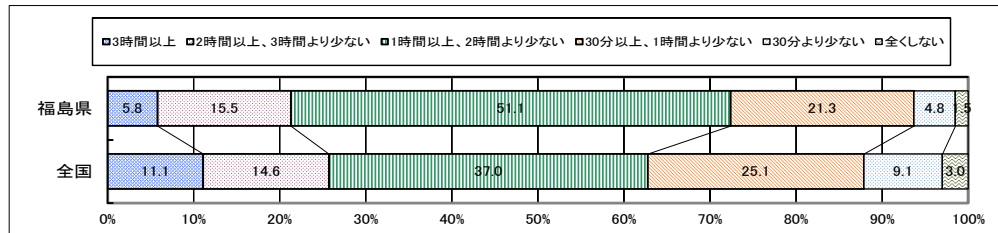


(3) 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について

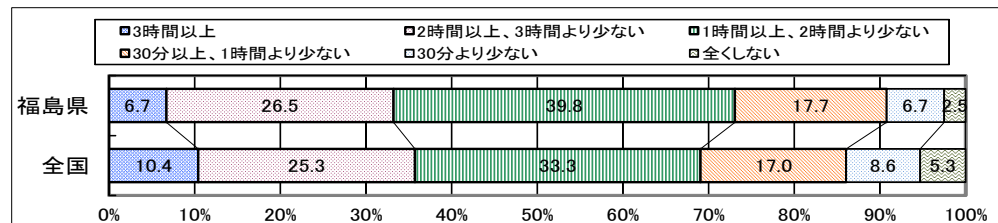
〈質問番号〉：(13)

- 学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間については、月～金曜日に1時間以上学習している小学生の割合は72.4%、中学生の割合は73.0%であり、どちらも全国の割合（小：62.7%、中：69.0%）より高い。
- 月～金曜日の学習時間が30分より少ない、または全くしない小学生の割合は6.3%、中学生の割合は9.2%であり、どちらも全国の割合（小：12.1%、中：13.9%）より低い。
- 26年度調査と比較すると、月～金曜日に1時間以上学習している割合は、小学生で0.7ポイント、中学生で1.7ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

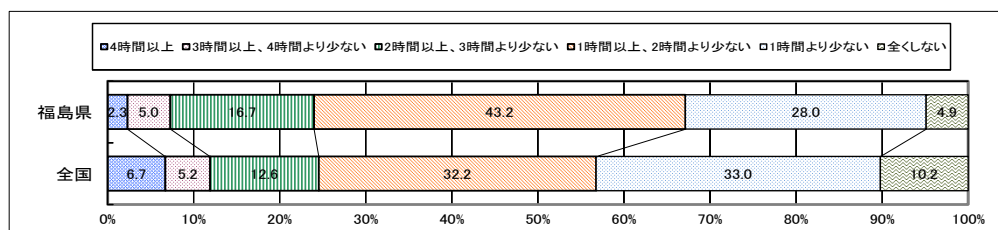


(4) 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について

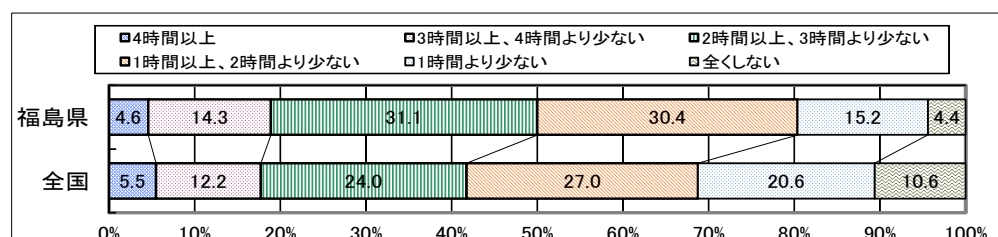
〈質問番号〉：(14)

- 土曜日や日曜日などの学校が休みの日の学習時間については、2時間以上学習している小学生の割合は24.0%、中学生の割合は50.0%であり、小学生の割合は全国の割合（24.5%）より低く、中学生の割合は全国の割合（41.7%）より高い。
- 学校が休みの日の学習時間が、1時間より少ない、または全くしない小学生の割合は32.9%、中学生の割合は19.6%であり、どちらも全国の割合（小：43.2%、中：31.2%）より低い。
- 26年度調査と比較すると、学校が休みの日に2時間以上学習している割合は、小学生で0.1ポイント、中学生で3.1ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

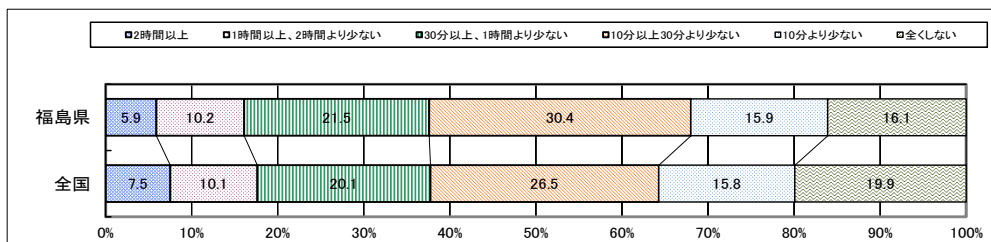


(5) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」について

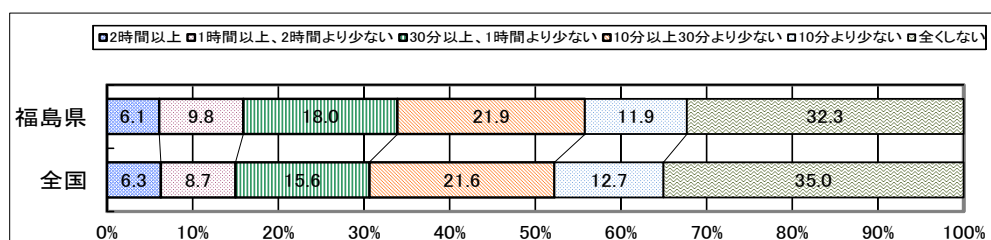
〈質問番号〉：(16)

- 月～金曜日に家や図書館で30分以上読書をする小学生の割合は37.6%、中学生の割合は33.9%であり、小学生の割合は全国の割合(37.7%)より低く、中学生の割合は全国の割合(30.6%)より高い。
- 26年度調査と比較すると、月～金曜日に家や図書館で30分以上読書をしている割合は、小学生で0.3ポイント低く、中学生では同ポイントとなっている。

【小学校】



【中学校】

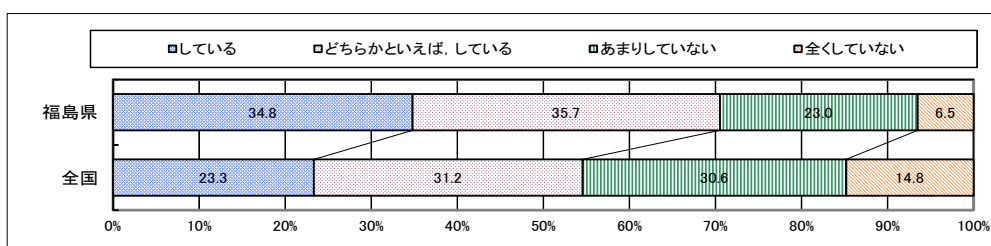


(6) 「家で、学校の授業の復習をしていますか」について

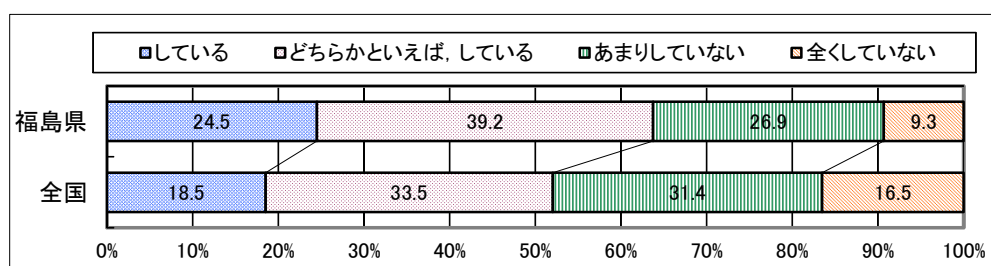
〈質問番号〉：(23)

- 家で、学校の授業の復習をしている小学生の割合は70.5%、中学生の割合は63.7%であり、どちらも全国の割合(小:54.5%、中:52.0%)より高い。
- 26年度調査と比較すると、復習をしている割合が小学生で0.9ポイント、中学生で2.1ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】



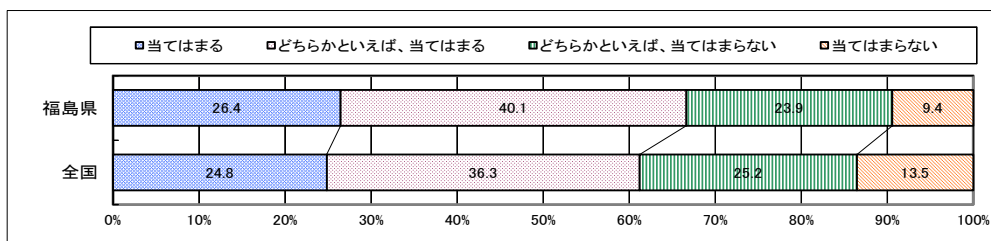


(7) 「国語の勉強は好きですか」について

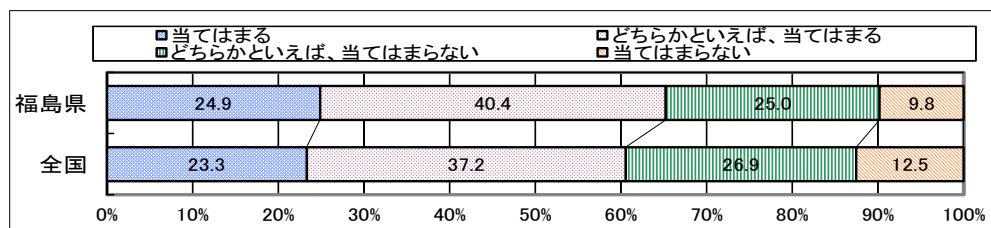
〈質問番号〉：(48)

- 国語の勉強が好きな小学生の割合は 66.5 %、中学生の割合は 65.3 %であり、どちらも全国の割合（小：61.1 %、中：60.5 %）より高い。
- 26年度調査と比較すると、国語の勉強が好きな割合は、小学生で 0.5 ポイント、中学生で 3.8 ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】

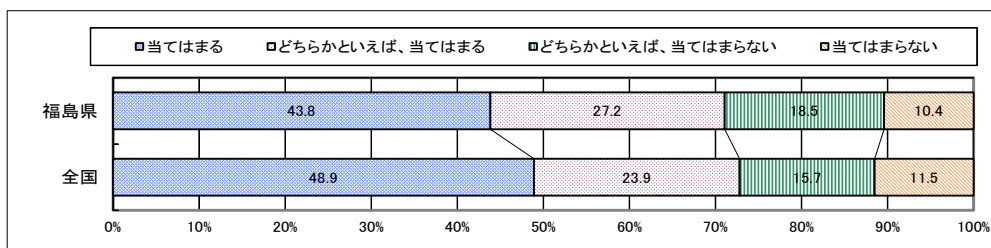


(8) 「読書は好きですか」について

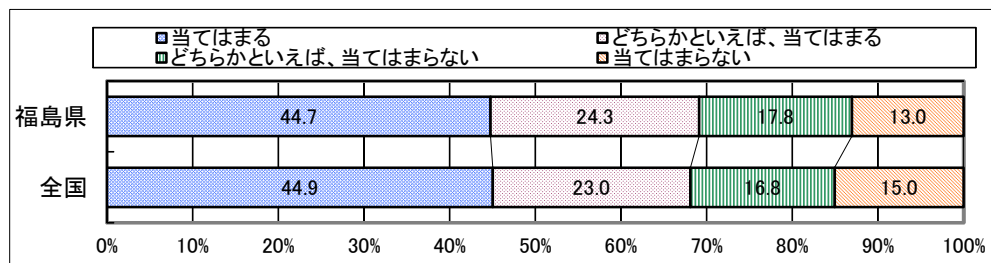
〈質問番号〉：(51)

- 読書が好きな小学生の割合は 71.0 %、中学生の割合は 69.0 %であり、小学生の割合は全国の割合（72.8 %）より低く、中学生の割合は全国の割合（67.9 %）より高い。
- 26年度調査と比較すると、読書の好きな割合は、小学生で 0.9 ポイント高く、中学生で 1.7 ポイント低くなっている。

【小学校】



【中学校】

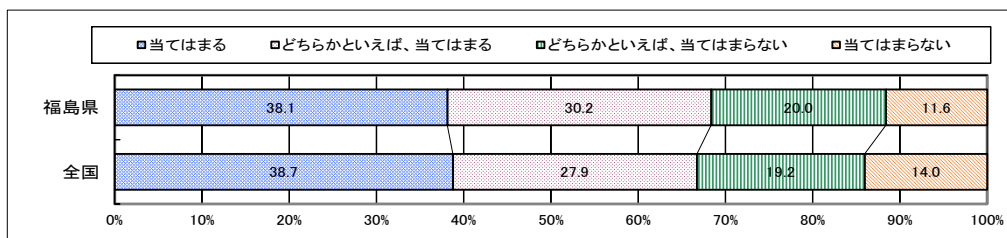


(9) 「算数・数学の勉強は好きですか」について

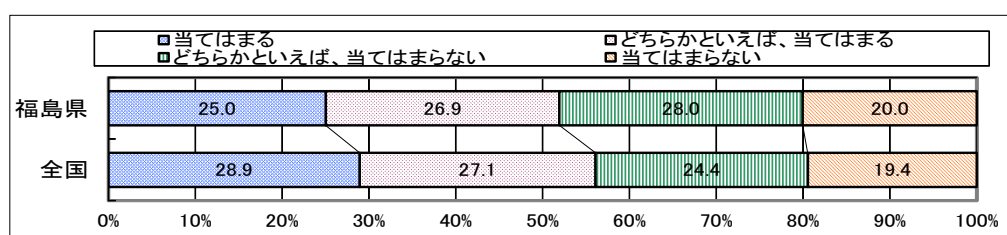
〈質問番号〉：(58)

- 算数の勉強が好きな小学生の割合は 68.3 %、数学の勉強が好きな中学生の割合は 51.9 %であり、小学生の割合は全国の割合 (66.6 %) より高く、中学生の割合は全国の割合 (56.0 %) より低い。
- 26年度調査と比較すると、算数の勉強が好きな小学生の割合は 2.4 ポイント高く、数学の勉強が好きな中学生の割合は 0.9 ポイント低くなっている。

【小学校】



【中学校】

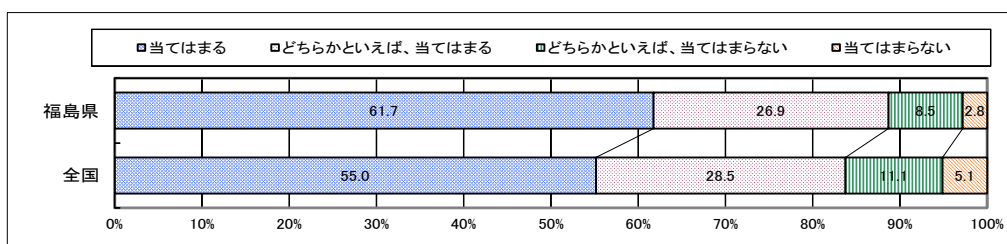


(10) 「理科の勉強は好きですか」について

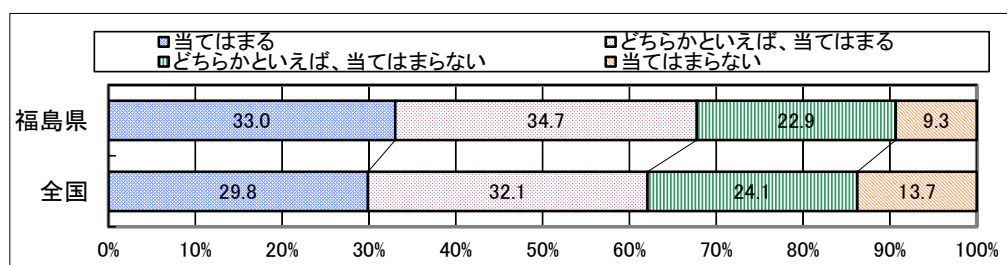
〈質問番号〉：(69)

- 理科の勉強が好きな小学生の割合は 88.6 %、中学生の割合は 67.7 %であり、どちらも全国の割合 (小：83.5 %、中：61.9 %) より高い。
- 24年度調査 (抽出) と比較すると、理科の勉強が好きな割合は、小学生で 1.8 ポイント、中学生で 1.1 ポイント高くなっている。

【小学校】



【中学校】



## IV 今後の指導に当たって

これまで述べてきたように、国語、算数・数学、理科ともに、小学校における課題と中学校における課題はおおむね共通しており、課題解決に向けた取組は、学習指導要領の目的や内容と軌を一にしている。今後の指導に当たっては、小・中学校の9年間を通した継続的な取組が重要である。

### 国 語

言語や言語文化に関する基礎的・基本的な知識・技能についてはおおむね身に付いてきており、文や文章の中で適切に用いることができる傾向が見られる。しかし、多くの課題も見られることから、それらを解決していくために、以下の二つの視点を基にした具体的な指導改善を図る必要がある。

#### 【効果的な言語活動の設定】

目標を達成させるための言語活動を単元を通して授業に位置付けながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用して課題を解決していく能力を一体的に育成していく取組を充実させる。

#### 【指導事項が一覧できる年間指導計画表の作成】

授業における指導のねらいは、指導事項のどれに基づくのかをこれまで以上に明確にする。そのため、生徒の実態と教材の価値を踏まえ、指導事項を一覧できる年間指導計画表を作成し、意図的・計画的な授業実践を積み重ねる。

#### ◇ 様々な資料から情報を的確に捉える指導の工夫

新聞、ポスター、図表やグラフなどを含めてレイアウトされた文章や資料を活用する機会を設け、それらの情報の特徴を捉えながら、数値や重要な語句など、必要な情報を細部にわたって的確に読み取る学習を意図的に設定する。

#### ◇ 複数の情報を関連付ける指導の工夫

文章と図表等の資料とを併せて解釈したり、同じテーマを扱った資料を比較検討したりしながら、複数の情報を関連付けて考えを深めていくことができるように指導を工夫する。

#### ◇ 根拠を明確にして自分の考えをまとめる指導の工夫

自分の考え説明する際には、具体的な根拠や理由を挙げるのが非常に重要である。読み取った資料を適切に活用して、必要な部分は引用したり利用したりしながら、理由や根拠を具体的に表現させる指導の工夫を図る。  
また、定着確認シート等も効果的に利用して自分の考えをまとめる学習を充実させる。

#### ◇ 学校図書館の有効活用

学校図書館の「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能を十分に発揮させ、国語科だけでなく他教科の学習においても学校図書館の活用を図りながら学校全体で学校図書館を有効に活用するための方策を講ずる。

### 算 数

評価の観点においては数学的な考え方に、問題形式においては、理由の記述式に課題が見られる。今回明らかになった課題を克服するために、日常の指導法を評価して改善に努めることが大切である。

以下に示した5つの指導改善のポイントを念頭に置いて指導に当たりたい。

#### ◇ 児童の実態と教材の系統性を踏まえた指導計画の工夫・改善

- 本調査における解答類型から児童の実態を把握（特に、誤答をした背景の分析）し、それに応じたきめ細かな指導を充実する。
- 学習内容における系統性を意識しながら単元、一単位時間の授業を構成する。

#### ◇ 授業のねらいを明確にした指導

- 授業のねらいについては、学習内容に応じてどのような数学的な考え方を育てるのかを明確にするとともに、ねらいが達成された児童の姿（どのような問題を解決できればよいか、どのように説明することができればよいかなど）を明確にする。

#### ◇ 数学的な考え方を高める授業展開の工夫

- 児童の自然な思考の流れをイメージして授業を構想する。その際、児童から問いを引き出し、児童が主体的に問題解決を図ることができるようにする。
- 児童がつまずきやすい考えを意図的に取り上げ、つまずきの修正等を図る活動を意図的に設定する。

#### ◇ 言語活動の充実

- 言葉、数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を活用して、考えたことを記述したり、自他の考えを説明したりする活動を重視する。
- 解決のために必要な根拠を満たす説明となっているかという視点で、よりよい表現にしていくための話し合う活動を意図的に設定する。
- 聞き取ったことを文字や絵図等で再生する活動を重視する。

#### ◇ 適用・習熟とまとめの時間の確保

- 本時のねらい達成にかかわる適用問題を準備して取り組ませる。その際、個に応じた問題や教師のはたらきかけに配慮する。
- 本時の授業で「こう考えればよかった」「だったら、こんなことも考えられる」など、数学的な考え方について振り返る場を設定し、次時以降の学習につなげることができるようにする。

### 数 学

基礎的・基本的な知識及び技能の定着とそれらを活用する力において、引き続き課題が見られる。今回明らかになった課題を克服するために、日常の指導法を振り返り、工夫・改善に努めることが大切である。

以下に示した4つの指導改善のポイントを念頭に置いて指導に当たりたい。

#### ◇ 生徒の実態に応じた指導計画の工夫・改善

- 小学校算数でどのような内容を学習し、どのような課題が挙げられているのかなどを踏まえるとともに、生徒の実態に応じて指導計画の時数等に軽重を付け、つまずきやすい学習内容について重点的に指導できるよう工夫する。
- 本調査における解答類型を参考に、生徒がどのように解いているか、どのように答えているか、どのような誤答があるかなどを確認しながら実態を把握し、誤答箇所の指摘や修正等の活動を意図的に取り入れる。

#### ◇ 数学的活動を重視した指導の充実

- 生徒が自ら考え、数量や図形のきまりや性質などに気づく授業を展開するために、授業の課題やめあてを適切に設定し、どの数学的活動に焦点を当てて指導するかを明確にする。
- 数学的活動などを基に、生徒の主体的な学習を促すような問題解決的な学習を充実させる。
- 日常的な事象を数学化（理想化・単純化など）すること、数学的に解釈することや表現すること、情報を活用すること、課題解決のための構想を立て実践すること、結果を評価し改善することなどの数学的なプロセスを重視する。

### ◇ 言語活動の改善

- 数、式、用語、図、表、グラフといった数学的な表現を活用して説明したり、自分の考え方や判断の理由等を数学的に記述したりする活動を授業の中に位置付ける。
- 生徒の表現をより数学的に吟味し、洗練させていくための指導を充実する。

### ◇ 適用とまとめの時間の確保

- 「どのような解決方法で、何がわかり、何ができるようになったのか、どのような考え方がよかったのか」など、数学的な見方や考え方も含めて意識できる時間を確保する。

## 理 科

基礎的・基本的な知識については、おおむね身に付いている。また、基本的な観察・実験の技能についても、前回（平成24年度）と比較すると改善傾向が見られる。しかし、主として「活用」に関する問題について課題が見られる。こうした状況を踏まえ、次の4点について改善を図りたい。

### ◇ 科学的な探究の過程の充実

問題を見いだすことや課題を明確にすること、予想したり仮説を立てたりすること、観察・実験を計画すること、観察・実験を行うこと、実験結果を処理すること、考察すること、まとめること、といった一連の科学的な探究の過程をしっかりと踏まえて指導する必要がある。

### ◇ 言語活動の効果的な位置付け

科学的な探究の過程において、観察・実験の前後に言語活動を効果的に取り入れ学習を深めていく必要がある。

＜観察・実験前＞

「なぜそのような予想や仮説を立てたのか」といった予想や仮説の根拠を話し合って相互理解や共有化を図ることにより課題解決への見通しをもたせることが大切である。

＜観察・実験後＞

観察・実験の結果の妥当性、共通性や傾向性に着目しながら結果を分析・解釈する話し合い活動を工夫する。また、「なぜそのような方法で行ったのか」「この結果から何が言えるのか」などを話し合ったりまとめたりする活動を充実させていく必要がある。その際、班や個人で実施した多くの結果から考察をすることや予想や仮説に照らし合わせて考察することがポイントになる。

また、レポートやポスターなどを作成する過程において、自分なりの表現方法（モデルや図）でまとめさせることも大切である。

### ◇ 児童生徒の主体的な観察・実験の充実

児童生徒の主体性を生かした個別実験や集団の機能を生かしたグループ実験、原理や法則の理解を深めるためのものづくり、継続的な観察や季節を変えての定点観測など各内容の特質に応じた観察・実験の充実を図り、一人一人が十分に直接体験できるようにすることが科学的な探究活動を充実させるためには不可欠である。そして、観察・実験の際は、積極的に机間指導を行い、児童生徒自身が自分の考えや取組を必要に応じて検討改善するきっかけとなるよう助言や問い返しをすることが大切である。また、観察・実験で使用する機器・器具の不足や修理が必要な機器・器具がないかを定期的に点検し、計画的に整備するなど理科室環境の充実に努めていく必要がある。

### ◇ 小・中・高校の系統性を意識した指導

「小学校では何をどのように学んできたのか」「中学校では、小学校の学習がどのようにつながっていくのか」を把握し、指導に当たり児童生徒の学びを連続させていくことが授業改善充実のポイントの1つある。また、科学的思考力を育成する上においても、小学校の各学年で育てる問題解決の能力（「比較しながら調べる」「関係付けながら調べる」「条件に目を向けながら調べる」「推論しながら調べる」）を踏まえ、指導することが大切である。

## 学習習慣及び生活習慣について

### ◇ 学習習慣について

本県の小・中学生は、家で学校の授業の復習をしている割合や月～金曜日に1時間以上学習している割合が全国の割合より高い。また、平成26年度調査と比較して、月～金曜日に1時間以上学習している割合が小・中学生ともに増加していることから、家庭における学習習慣が定着してきていることがうかがえる。一方で、学校が休みの日の学習時間が月～金曜日に比べると少ないなどの課題も見られる。今後は、家庭とより一層の連携を図り、さらなる家庭学習の時間の確保や一人一人に合った学習内容に取り組みさせるなど、学習の質の向上に向け、個に応じた支援を展開することが大切である。

### ◇ 読書について

月～金曜日に家や図書館で30分以上読書をしている割合は、小学生がおおむね全国平均であり、中学生は全国の割合を上回っている。今後も読書のもつ教育的効果をさらにあげるために、学校司書の活用を図るとともに学校や家庭において本に親しむ機会を設けたり、折に触れ良書を紹介したりするなど、教師をはじめ子どもたちにとって身近な大人たちが積極的に読書を推奨していくことが大切である。

### ◇ テレビやビデオ・DVDの視聴及びゲームをする時間について

月～金曜日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見たり聞いたりしている割合は、小・中学生ともに全国の割合より低い。平成26年度調査と比較すると小学生は低く、中学生は高くなっている。また、月～金曜日にテレビゲームを2時間以上している割合は、小・中学生ともおおむね全国平均である。今後も小・中学生ともにテレビやビデオ・DVDの視聴時間、テレビゲームをする時間を減らし、その時間を家庭学習や読書の時間に充てさせるなど、時間の有効活用について家庭と連携し継続的に取り組むことが大切である。



## V 各学校における組織的・継続的な取組

- 本調査は、各学校における日常の学習指導の改善・充実を図り、児童生徒の学力向上に生かしてこそ意義あるものとなる。各学校においては、校長のリーダーシップのもと、当該学年及び当該教科以外の教員を含め学校全体で本調査問題及び調査結果を分析し、自校の課題を明らかにして、より実効ある学習指導への改善・充実に役立てることが大切である。
- その際、今回の結果を踏まえた取組の成果と課題を「福島県学力調査」において検証し、さらに次年度の全国学力・学習状況調査を活用する…という、ロングスパンのPDCAサイクルを確立することが重要である。また、本県独自の「定着確認シート」を効果的に活用して、各単元等における学習内容の定着や活用する力の状況を把握し、つまずきの克服や日々の授業改善に結び付けるといったショートスパンのPDCAサイクルを構築し、児童生徒の学力向上のため、徹底して日々の取組を進めることが大切である。
- 本県が推進している少人数教育の意義や目的を踏まえ、その活用を図ることも重要な視点である。個別指導やグループ別指導、習熟度別指導などを学校や児童生徒の実態に応じて、指導計画に位置付けるなど、指導体制や指導方法のより一層の工夫を図ることにより、学ぶ意欲を高めるとともに、「わかる・できる授業」、さらには思考力・判断力・表現力等を高める授業への転換を図っていくことが求められる。
- 同校区内の小学校、中学校が連携し、課題の共有とその解決に向けた取組を行ったり、家庭との連携により授業と家庭学習との関連を図る取組を進めたりすることなども今後の課題となる。  
 なお、家庭や地域、社会と連携して取り組む学力向上については、平成27年度福島県教育員会作成の「『つなぐ教育』で確かな学力を～家族・教職員・社会人が一体となって～」を参考にされたい。  
 (義務教育課 HP アドレス <http://www.gimu.fks.ed.jp/>)

